

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいか』『その先の日本国へ』（勁草書房）、『冒険としての社会科学』（毎日新聞社）、『民主主義は最高の政治制度である』（現代書館）、『言語派社会学の原理』（洋泉社）、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』（夏目書房）、『はじめての構造主義』（講談社現代新書）、『小室直樹の学問と思想』（共著、弓立社）、『こんなに困った北朝鮮』（メタローク）、『自分を活かす思想/社会を生きる思想』『天皇の戦争責任』（共著、径書房）、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』（共著、平凡社新書）、『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房）、『幸福のつくりかた』（ポット出版）、『政治の教室』『人間にとって法とは何か』（PHP新書）、『寛容のレシピ』（グラスビー著、解説・NTT出版）、『日本人は宗教と戦争をどう考えるか』（共著・朝日新聞社）、『「心」はあるのか』（ちくま新書）、『永遠の吉本隆明』（洋泉社新書y）ほか。

<http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ アメリカとは何なのか

1) 旧大陸と新大陸

- ・文明は旧大陸に興る 大河の流域～農耕適地～栽培植物～民族抗争～帝国
人口稠密、歴史と伝統の蓄積、諸文明の併存と対立 文明は互いに自己主張する
- ・産業文明は新旧大陸にまたがる 新大陸は移動に不便～空き地
産業は旧大陸に興る（文明の遺産） 産業文明は移動手段を擁する→文明の波及
移民～豊富な資源～資本と技術の移転～伝統の制約なしに理想的な発展をとげる
- ・新大陸は、旧大陸の干渉を嫌い、孤立を好み、旧大陸の統一を嫌う（新大陸の戦略）

2) 新大陸はなぜ覇権を握るのか

- ・新大陸の優位 一人当たり資源が豊富、伝統が稀薄、高い生産性、全世界が市場
- ・新大陸は侵略されない →外交のフリーハンド →中立志向、国益の追求
- ・新大陸の軍事的優位 旧大陸は戦争を反復 新大陸は巨大産業国家に 最強の軍隊

□2□ 宗教国家アメリカ

1) ピューリタンとバイブル・コモンウェルス

- ・キリスト教：伝統社会を否定する一神教 カトリック：共同体の慣行を尊重
ピューリタニズム：厳格個人主義 神は絶対→人は救済に関与できない
カトリックは離婚禁止 改革派は離婚できる→愛が正当化→家族は人為的、核家族
- ・約束の地 ピューリタンは、旧大陸の移民が新大陸を占有することを正当化
旧約聖書（出エジプト記、ヨシヤ記…） イスラエルのアメリカ

2) ピューリタニズムの世俗化

- ・半途契約 halfway covenant：熱心な信徒の不信仰な子どもも共同体のメンバーに
→行為の外見（良好な夫婦関係、勤勉、経済的成功…）が重要に 小家族経営
- ・経済倫理 Time is money. Honesty is the best policy. … が全体社会を支配

3) 政教分離とアメリカ

- ・信仰の自由（タウンの自治）→政治的自由（政教分離）→自由=価値=建国の理念
- ・法律～コモンロー（イギリス法）：信仰と無関係 + 議会（自分たちの代表）の立法
法律は世俗の公共善のためにある
- ・モンキートライアル（進化論裁判） 公教育では宗教は教えない→信仰と進化論は両立しない→進化論は信仰の一種→進化論を公教育で教えるはいけない→訴訟

□3□ 独立戦争のアメリカ

1) 合州国の正統性

- ・王の大権(prerogative) →特許状(charter) →権利主体(freeman) →自治政府→独立
王からの独立=自己統治 人民個人が作り出した権力のみが正当との信念
- ・アメリカは全州の政治的統一を最重視 植民地：相互に安全→独立後は潜在的脅威
州には離脱の規定がない cfソビエト連邦 →アメリカの価値（自由）への献身

2) フランス革命とアメリカ革命

- ・アメリカ 人民の武装(minuteman) →市民軍(+政府軍、フランス軍) →独立
フランス 三部会(+暴動) →国民公会→憲法制定・国王処刑→共和国→国民軍
- ・市民革命としては、アメリカのほうが純粹形に近い フランス革命のロシア革命

3) 南北戦争のアメリカ

- ・独立戦争vs内乱(Civil War) 鉄道を使った近代戦 50万人の死者 第二の建国
南北戦争後、アメリカ合州国の主権は万全になった 大統領の軍事指揮権

□4□ 社会科学者のアメリカ

1) パーソンズ (Talcott Parsons 1902-1979)

- ・生殖家族(family of procreation) と定位家族(family of orientation)
親にとっての家族（選択～人為）/子どもにとっての家族（所与～自然）の二重性
- ・ホッブズの秩序の問題：人間は自由→ガム・コンティンジェンシー→規範が共有されていれば安定
自由な人びとに規範を与えるのが、社会システム（政治・経済・文化の複合秩序）
- ・社会化(socialization)：規範を持たない人間を社会に適応させる ⇐学生の批判

2) サムエルソン (Paul Anthony Samuelson 1915-)

- ・サムエルソンの動学的安定条件：市場で模索価格が均衡に収束する条件
自由な個人の行動の結果がどう秩序をうむかというモチーフは、パーソンズと同じ
- ・新古典派…ミクロ、マクロ経済学を統合する単純な数理モデル →自由経済の優位
ミクロ：家計(household) は効用極大、企業(firm)は利潤極大をはかって行動
マクロ：国民経済=Σ家計+Σ企業+政府（財政支出） 所得～消費～貯蓄～投資
新古典派経済学は、アメリカ社会のミニチュアモデル →ほかの社会に有効か？

3) リースマン (David Riesman 1909-)

- ・『孤独な群衆』(Lonely Crowd 1950)：アメリカの大衆社会状況を活写 人間類型
伝統志向型 伝統社会の人間～所与の価値に準拠して自己形成 …旧大陸
内部志向型 古典的アメリカ人～個人の価値観に忠実 …ピューリタンの倫理
他人志向型 other-directed type 大衆社会～価値規範の空洞化 …50年代の空虚
⇨社会心理学、消費社会論、行動科学 ～人間を「操作」する試み ～システムの優位

□5□ トクヴィルのみたアメリカ(1)

● Alexis de Tocqueville 1805-1859 フランスの政治思想家、社会学者、政治家。1831年～1832年にかけてアメリカ各地を旅行。De la democratie en Amerique (1835/1840) 邦訳『アメリカの民主政治』(上)(中)(下)講談社学術文庫 を出版。

1) 平等

《アメリカに滞在中…地位の平等ほど私の目をひいたものはなかった》(上:21)
・相続法:均分相続～貴族制は不可能～勤勉の必要～機会の平等 人民の自己決定
《私はアメリカで、アメリカ以上のものを見た》(上:40) 辞めた公人は普通の市民
《政治界に平等を支配させるには二つの方式がある…各市民に権利を与える方式…権利を与えない方式》(上:113) 平等は、専制的権力とも適合的

2) 権力

《権力は…土地を買い…人民を統治するひとりの人間…会社…に集中》(上:78)
⇒自治を行なう権利 自由に好都合な植民形式:ニューイングランドでのみ実行された
・選挙～任期～権力が集中しても下野する～統治者の裁量が大きい～官僚が少数
《権力自体の使命は…自由を保護すること》(上:85)
・言論の自由～無数の新聞・雑誌・出版～集会・結社の自由
・政教分離 《牧師…が全く公職についていないのを知って驚いた》(中:262)～誇り

3) デモクラシー

《州法は王制であるが、共同体では…共和制が…生きてはたっている。》(上:83)
《共同体には…議会…はない》(上:127) ⇒クビターティング 多くの選挙～多くの行政職
・○政治的中央集権 ×行政的中央集権 「:179)
《法律を作り…執行する権利を与えられている多数者ほど…専制的君主は…ない》(中)
⇒《多数者は永続的な自己崇拜といううぬぼれの中で生きている》(中:183)
・多数者の専制→少数者の絶望→暴力に訴える→無政府状態 :トクヴィルの予測

□6□ トクヴィルのみたアメリカ(2)

1) アソシエーション

《世界中でアメリカは団体をもっともよく利用している国》(上:45) association
・人為的な組織 特定の目的で結社をつくる 目的が実現するよう合理的運営
・コミュニティ(地域社会、民族集団)～アソシエーション(中間団体)～政治的国家
教会、株式会社、クラブ、財団、NGO、大学、同窓会、病院、慈善団体、…

2) 奴隷制

・《神は…短期間の用益権だけを与えた》(上:58)～占有 ↔ 農業～所有
・原住民/奴隷は人権を奪われている 奴隷制は効率が悪い 奴隷解放は差別を強化
奴隷問題は解決がむずかしいだろう
《ニグロ…偏見は…奴隷でなくなるに比例して増加》(中:359) 奴隷解放→黒人隔離

3) 外交

《アメリカは隣国…をもっていない。…大戦争も…征服も経験…ない。》(中:225)
《アメリカの連合体は闘う相手としての敵をもっていない。》(中:282)
・全国民的なもの:軍事と外交 アメリカ本土は安全であるはず
真珠湾(アメリカに対する先制攻撃)→世界に関与 9.11(テロ)→ホームランドセキュリティ

□7□ アメリカン・カルチャー

1) アメリカにしかない文化

・野球/アメフト/バスケット…アメリカで発明 既存のスポーツでは一部の移民が有利
・星条旗と憲法…忠誠の対象 神の代理物 自由:人が人を支配してはいけない
・ハンバーグ/コーラ/ジーンズ どのエニググループの人びとも共通に享受できる
手軽; 便利; 年齢・性別、場所・時間を問わない; 階層に無関係

2) エンターテインメント

・享楽を避ける傾向(ドライヴ)→享楽街(ラスベガス) ハリウッドに映画産業～ユダヤ系
・ジャズ 白人の楽器→黒人の演奏→白人も享受 クラシック(旧大陸)でない
・ミュージカル 点在する農村→巡回公演(ボールドウィン、ショーボート)→定着 オペラでない

3) アメリカン・ウェイ・オブ・ライフ

・自動車 点在する農村→馬車→自動車 ガソリンが安い/工業/道が広い
・郊外型住宅 都市→電車・自動車→都心へ移動(擬似田園生活)→資源浪費文明
冷蔵庫/洗濯機/スチーム→エアコンディショナー/電話/システムキッチン/個室/シャワー・トイレ/…
・消費文化 貴族や身分が存在しない→消費が階層を表示→広告・ブランド…
消費者=市民の主権

□8□ サリンジャーのアメリカ

● Jerome David Salinger 1919- アメリカの作家。裕福なユダヤ人の父とカトリックの母の間に生まれる。NYで成長し、プレップスクールを退学になる。短編小説が認められるも志願して入隊、ノルマンディ上陸作戦など激戦を経て神経衰弱となり入院。1951年、The Catcher in the Rye を出版。やがて田舎の森にこもり、隠遁生活に入る。

1) 『ライ麦畑でつかまえて』

・主人公ホルデン・コールドフィールド 兄D.B(戦争帰りの作家、不在)、妹フィビー、弟アリ(死亡)
・書かれていないこと ①ユダヤ出自(両親の信仰、友人の名)②戦争(D.Bの参戦)
D.B(不在)→16歳の架空の弟→you(死んだ弟?)への語り 小説=治療行為
・時間的遡行、空間的退行 《小川が流れたりしている…土地に二人で住み…》(218)
サリンジャー本人が、小説をコピーし、小説に閉じこもる cf G.Gould

2) 俗物・対・イノセント

・神の不在(戦場に神はいない) →アメリカ文明を個人が支えきれぬか
サリンジャー:退学→×都市専門職、×家業 インチキvs価値(イノセント) 価値は説明不能
・キャッチャー・イン・ザ・ライ:イノセントの側に立ち「孤立」人生を選択 ヒッピー、ユダヤ、テロリスト
アメリカに魅惑されながらアメリカを拒否する小説 ⇒グローバルゼーションと共に世界の心象風景へ

3) 80年代の保守回帰

・家庭の価値 family value ×ドラッグ ×セックス 個人間の紐帯 cfクリントン・ブッシュ
・宗教への回帰 キリスト教原理主義 テレバングリスト 草の根保守 国内での孤立的傾向
・納税者の反乱 連邦政府の弱者救済・福祉政策→重税路線に反対 地域社会再建
⇒単独行動主義への下地 旧大陸の諸国家・諸文明と妥協する必要がどこにある?
サリンジャー本人の孤立的傾向と、並行する部分もあるとみえるのは皮肉

* 村上春樹・柴田元幸 2003 『サリンジャー戦記 翻訳夜話2』文春新書

□9□ 20世紀という時代

1) アメリカとソ連

- どちらも宗教的人造国家 旧大陸・ヨーロッパを西へ…アメリカ、東へ…ソ連
- 自由と解放の理念 ⇨ 出エジプト記：隷属をのがれ約束の地へ モーゼ＝マルクス
- アメリカはソ連を敵対視 理念的理由～本当の自由はどちら？ 国益～旧大陸の危機

2) 世界大戦と世界戦略

- 孤立主義→プラグマティズム ナチスを倒すのにソ連と同盟 ソ連を倒すのに中国と同盟
- アメリカは、覇権に対する挑戦を許さない ⇒ 中国との対立が厳しいものになる？
- 日本の対米戦争 非合理的な攻撃なので、宗教的行為（天皇制）と理解された

3) 共産主義に対する戦い

- 対ソ連戦争が核兵器によって不可能に ⇒ 冷戦（不本意な、総力戦の凍結状態）
- 「恐怖の均衡は不道徳」byレーガン スターウォーズ計画…新大陸の安全保障を回復
- 日本の非軍事化と経済的繁栄 ← 対共産主義戦略、アメリカの国益に即する

□10□ 日本とアメリカ

1) なぜアメリカは日本を開国させたのか

- アメリカのアジア戦略 列強の対立併存はよい ⇨ 対中国：門戸開放政策
- 日本の独立と近代化を支持 ロシアの進出を警戒 国益追求（フィリピン、中国）
- 日本と中国の一体化→強い東アジアは困る 勢力均衡⇨ヨーロッパの反映
- 日露戦争の講和仲介～日本の拡大を牽制 日英同盟 ⇨ 第一次大戦後、同盟空洞化

2) なぜアメリカと日本は衝突したのか

- 排日移民法…アメリカの国内問題 ⇨ アメリカの「理念」に対する懐疑～日本ナショナリズム
- 満州共同開発の提案→日本が拒絶 満州事変（ソ連が仮想敵） 満州＝小アメリカ
- 西安事件（張学良が仲介し蒋介石と周恩来が抗日を優先し協定結ぶ）→日華事変1937
- 単独で日本に勝てない中国は、日本占領→欧米利権否定を演出、米英の支援を期待
- 第二次大戦→対日開戦時期を遅らせつつ経済封鎖、建艦計画 ⇨ 日本の先制攻撃

3) 戦後日米関係とは何だったか

- 日米戦争は価値観の相違（軍国主義・全体主義）から → 日本を「民主主義」に
- 日本占領は、①間接統治（官僚温存）、②天皇温存 農地解放～自民党政権の基盤
- 冷戦→日本再軍備・日米安保条約 日本／中国・ソ連を分断しつつ日本を支援
- 日中関係（従属変数）←日米関係←米中関係（独立変数） アメリカは日本を対中カードに
- 日本の「独自の意思決定」を許容せず（→属国論） 保守の二元性（親米vs反米）

□11□ ネオコンのアメリカ

1) リベラリズムと保守主義

- アメリカの政党は、派閥みたく 強力な議会が大統領を牽制 議員の自由投票
- ロビー：立法過程に影響を与える活動 特殊利益・シンクタンク 影の薄い大統領
- 連邦主義／地方分権～大きな政府／小さな政府～民主党／共和党 超党派biparty
- 保守主義…宗教（含・原理主義）、地方分権 リベラリズム…公民権、福祉

2) 強い大統領

- もともと軍事指揮権は大統領に cf 宣戦布告は議会の権限
- FDR（フランクリン・ルーズベルト） 恐慌→伝説の百日→立法に関与→大統領府
- L・B・ジョンソン 補佐官の競争的助言システム 政策立案能力
- R・ニクソン キッシンジャー補佐官→國務長官 國務省・国防総省の頭越し外交
- R・レーガン 強いホワイトハウス・スタッフ+強い閣僚 をめざす

3) ネオコンサバティズム

- 民主党系知識人の保守転向 ポスト冷戦で、保守主義が現実的な選択肢に
- ヨーロッパ地位低下 → 単独行動主義 unilateralism → 国益と世界秩序維持の合体
- 保守主義と違い、明確な世界戦略をもつ 突出した軍事力でアメリカの国益を確保

□12□ グローバル化と未来

1) ポスト冷戦世界とアメリカ

- 冷戦の半世紀、アメリカは「共産主義との戦い」のためコストを払ってきた ⇨ 勝利
- 共産主義が敵である理由…… 1) 無神論である、2) 自由・所有権を否定する
- 自由の基礎は まず、身体。次に、財産。 ← 人はどこまで自由か/リベラリズム論争
- 機会の平等⇨結果の不平等→相続の平等、寄付の奨励、財団文化 → 納税への抵抗

2) 「文明の衝突」なのか

- アメリカの正統性 …旧大陸の文明に対する「超文明」 → 実際は資源浪費の圧迫者
- 旧大陸の試み（ナチ全体主義、日本天皇制、ソ連共産主義、イスラム革命）はすべて誤り（文明とは認めない） 単独でアメリカに挑戦する試みは必ず失敗する
- グローバリゼーション …各国が独立（自己責任）を果たしつつアメリカ中心の市場
- 統合が進むプロセス 英語の優位 情報の優位 アメリカ憧憬と反感が同居

3) アメリカを理解すれば日本がわかる

- アメリカの対日政策は、世界戦略のなかで決まっている ∴ 戦略が変われば変化する
- 戦略 … 1) なるべく長く覇権を維持する、2) 覇権を脅かす国を叩く、3) 国際社会のルールを自国に有利に解釈、4) 原則で一貫するより状況に応じて柔軟に対応
- アメリカは旧大陸に対する優位の根拠を「正しさ」（価値観）に置いている
- アメリカに誤りを理解させるのは至難のわざ
- 日本の戦略 … 1) なるべく長くアメリカの覇権を維持させる、2) そのいっぽう後
- 継システムを「アメリカを含む連合」としてつくれるように準備を進める
- 軍事……憲法改正で自衛隊を国防軍とし、アメリカと共同行動
- 経済……共通のルールのうえで戦える活力ある産業を育てる
- 文化……日本の独自性を武器にアメリカと対抗できるよう頑張る

- * 副島隆彦 1999 『世界覇権国アメリカを動かす政治家と知識人たち』講談社+α文庫
- 森村進 2001 『自由はどこまで可能か——リベタリアニズム入門』講談社現代新書
- 広瀬隆 2003 『アメリカの保守本流』集英社新書
- 三輪裕範 2003 『アメリカのパワーエリート』ちくま新書
- ロバート・ケーガン 2003 『ネオコンの論理——アメリカ新保守主義の世界戦略』光文社

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『その先の日本国へ』(以上、勁草書房)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『冒険としての社会科学』(毎日新聞社)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『こんなに困った北朝鮮』(メタログ)、『正義・戦争・国家論』『自分を活かす思想/社会を生きる思想』『天皇の戦争責任』(以上、共著、径書房)、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』(共著、平凡社新書)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『世界がわかる宗教社会学入門』(筑摩書房)、『強いサラリーマン、へたばる企業』(共著・廣済堂出版)、『寛容のレシピ』(グラスビー著、解説・NTT出版)、『政治の教室』(PHP新書)、『日本人は宗教と戦争をどう考えるか』(共著・朝日新聞社)、『「心」はあるのか』(ちくま新書)、『人間にとって法とは何か』(PHP新書)、『永遠の吉本隆明』(洋泉社新書y)ほか。 <http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ 宗教とは何だろう

- 1) 宗教の定義は、むずかしい
 - ・橋爪の定義：宗教「日常生活のなかで自明でない前提にもとづいてふるまうこと」
- 2) 宗教の役割……人びとの集まりである社会に、道徳・規範・社会構造を与える
 - ・宗教は、OS (MAC, WINDOWS) のようなもの 優れているから普及すると限らない
- 3) 宗教は生活に密着している
 - ・キリスト教徒10億+ムスリム10億+ヒンドゥー教徒10億+儒教徒10億+…
 - ・日本人の宗教嫌いは、江戸時代、明治時代の「行政指導」のせい

□2□ ユダヤ教

- 1) 一神教 monotheism は、ただの多神教 polytheism の反対なのか
 - ・宗教=神との契約=法律 なぜユダヤ民族は一神教を発明したか?
 - ・ヤハウェ：戦争神/創造神 神は主/人間は奴隷 ユダヤ民族にとって救済とは?
- 2) なぜユダヤ教には、ややこしい宗教上の規則があるのか
 - ・食物規制(血は飲まない、鱗のない魚はだめ、……) ⇒異教徒と結婚できる?
 - ・安息日(ユダヤ教は土曜、キリスト教は日曜、イスラム教は金曜)
- 3) 「預言者」「法学者」はどういう活動をするのか
 - ・預言者~神の声を聞き王と人民に警告(知識人の原型) モーゼ、エリヤ、イザヤ…
 - ・パリサイ人~モーゼの律法に忠実な平信徒 シナゴークは教会なのか?
 - ・ラビ~世俗の職業をもつかわらユダヤ法学者として活動

□3□ キリスト教

- 1) イエス=キリストを信じると、なぜ救われるのか
 - ・イサクの犠牲 アブラハムがあわや一人息子を犠牲に ⇒イエスの礎
 - ・パウロの学説 イエスはキリスト、神のひとり子 「原罪」
- 2) 『聖書』はなぜ、旧約+新約なのか
 - ・最後の審判(神の裁き)とは 救済とは ハルマゲドンとは?
 - ・人間は死んだらどうなるのか 誰が「神の国」に入る?
 - ・なぜキリスト教は政教分離か? 教会(法律を守る) 皇帝(信仰を守る)
- 3) なぜ、いくつも教会があるのか
 - ・東方教会(カソリック)~ビザンチン総主教/西方教会(ローマカトリック)~ローマ教皇
 - ・プロテスタント教会 ルターが免罪符の販売に抗議
カルヴァン派(→清教徒)、ルター派、クウェーカー、バプティスト…
 - ・英国国教会(アングリカン・チャーチ)
 - ・イエズス会(強固な軍隊的組織と献身)~反宗教改革

□4□ イスラム教をどう理解すればいいか

- 1) ムハンマドは、教祖なのか?
 - ・ムハンマド=最大で最後の預言者(神の使徒) 『クルアーン』の啓示を受ける
 - ・カリフ(神の使徒の代理人):ムスリム共同体(ウンマ)の統治者
- 2) イスラム法は、合理的なシステム
 - ・法源:クルアーン/スンナ/イジュマ/キヤース 上位の法源が優先
 - ・スンナ:ムハンマドの言動についての伝承(ハディース)
 - ・イジュマ:法学者の一致した見解 法学者に手紙を出し判断を仰ぐ
 - ・キヤース:三段論法による法学者の推論 ほかの法判断を拘束しない ×人の立法
- 3) イスラム教は「原理主義」なのか
 - ・イスラム法の遵守 イスラム法は民族を超越している 礼拝/巡礼/食物規制
 - ・救済:地上の幸福/来世の幸福(二重の幸福) 聖戦(ジハード)→天国
 - ・西欧化(資本主義、民主主義)はなぜ困難なのか

□5□ 日本人の宗教をどう理解すればいいか

- 1) 神と仏を、同時に拝むことができるか?
 - ・仏教…哲学的合理主義…世界の存在を否定 ×自己 ×靈魂 ×先祖崇拜 ×葬儀
 - ・本地垂迹説:仏陀の神々 法華経の本仏思想がヒント
 - ・切支丹弾圧 →宗門人別帳 →仏壇・位牌・葬式仏教
- 2) 日本は儒教社会なのか
 - ・儒教…官僚の行動マニュアル 父系社会(年長者絶対)+官僚制(君主絶対)
 - ・日本的儒学 忠孝一如(父に仕えるごとく主君に仕えよ) ⇒天皇制、日本株式会社
- 3) 「英霊」は神道の考えなのか
 - ・垂加神道(山崎闇斎が唱えた) 儒教の君主=天皇=神の子孫
 - ・平田神道(平田篤胤が唱えた) 死の穢れを否定 →霊は現世に実在
- 4) 「あなたは何を信じているの」と聞かれたら…?
 - ・「無神論です」は、なぜまずいか?

2004-5-(3)

富士通経営研修所 日本人はいま 2004.2.17
2003年度第12回 何を考えればいいのか 橋爪大三郎
8級昇級者研修 :::::::::::::::::::::::::::::::::::::: (東京工業大)

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればいいのか』『その先の日本国へ』(以上、勁草書房)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『選択・責任・連帯の教育改革』(共著・勁草書房)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『こんなに困った北朝鮮』(メタローク)、『正義・戦争・国家論』『自分を活かす思想/社会を生きる思想』『天皇の戦争責任』(以上、共著、径書房)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』(共著、平凡社新書)、『世界がわかる宗教社会学入門』(筑摩書房)、『政治の教室』(PHP新書)、『強いサラリーマン、へたばる企業』(共著・廣済堂出版)、『寛容のレシピ』(グラスビー著、解説・NTT出版)、『日本人は宗教と戦争をどう考えるか』(共著・朝日新聞社)、『「心」はあるのか』(ちくま新書)、『人間にとって法とは何か』(PHP新書)、『永遠の吉本隆明』(洋泉社新書y)ほか。 <http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ 近未来小説『平成三十年』は現実になるのか

* 堺屋太一『平成三十年』1997-1998 朝日新聞朝刊連載→2002朝日新聞社→2004朝日文庫

1) 日本で確実に進む三つのこと

- ・ 少子高齢化……65歳以上の高齢者が総人口の27%に。
- ・ 地方の過疎化……東京一極集中はますます顕著に、地方の町村は自立できなくなる
- ・ 産業構造変化……多くの基幹産業が消滅し、代わって新産業が興隆 「知価社会」

2) 「改革の合戦」：織田信介大臣+木下課長、明智、前田、柴田、石田…：官僚チーム

- ・ 木枯らし政策 《成長時代の昭和が去って間もなく三十年、古い昭和の組織や制度の多くが、枯れ葉となりながら、なお経済社会の樹に留まっている。これを吹き飛ばさなければ新しい芽は出ない。今は太陽より木枯らしが必要、私はそんな冷酷な木枯らしの役目を果たしたい……》(上370p) ⇒「五つの開放、三つの削減」
- ・ 医療介護の開放、農地の開放、土地移動の開放、教育の開放、公共施設からの開放
- ・ 国税半減、歳出半減、公務員数半減 市場の失敗でなく官僚の失敗

3) 与野党大連立による「日本改革基本法」

《この政党は、日本の抜本的改革を断行した上で、千日以内に解散すべきものと考えます。大改革を実現すれば、新たな対立軸が明らかになるはずであり、それによって政界は再編成されねばならないからであります。》(下462p)

□2□ 日本の民主主義は、なぜ力強さが無いのか

- 1) 公共 the public ……ふつうのおじさん、おばさんが大勢集まった状態 (=公衆)
 - ・ 政府 government ……公共から委託されて、公共サービスをこなす代理人 agent

- ・ 民主主義 ……人びと(国民)が政府をコントロールしている状態
- 2) 尊皇攘夷と明治維新
 - ・ 新政府の政権は、国民の自由のためではなく、外国の植民地にならないためにできた
 - ・ 国家=教会(神聖な存在) 教育勅語(天皇が道徳規準) 軍人勅諭~皇道派 聖戦
 - 3) 戦後民主主義の未成熟
 - ・ 三権分立のはずが、行政府(官僚)の優位 政権交替なし 憲法も改正できない
 - ・ 投票=意思決定を回避~少数派になるのが怖い コンセンサス(全員一致)を好む
 - ・ 目的合理的思考が弱い ポリシーペーパー? ミッション・ステートメント?

□3□ 政治の混迷を、どう立て直すか

- 1) 小泉政権のねじれ構造 支持率80%強-自民党支持30%強=無党派50%(!)
 - ・ 派閥党内力学<国民的人気
 - ・ 「改革をやります」に国民は熱狂、でも、どんな「改革」をしてほしいか曖昧
- 2) 小選挙区制が、政治を変えつつある
 - ・ 中選挙区~派閥の戦い ⇨ 小選挙区~党の戦い 党の顔が欲しい:小泉、安倍
 - ・ マニフェスト(与党/野党の政策パッケージ) 数値目標 自民党vs新民主党
- 3) 政治の改革 ~意思決定力の強化
 - ・ 国会の機能強化 次年度費制(議員を半分に) 調査・立法機能の充実
 - ・ 中央省庁の権限縮小・簡素化・規制緩和 特殊法人の民営化 政治任用の促進
 - ・ 地方政府の自立 財源(たとえば消費税)を移管して交付税を廃止 委任事務廃止

□4□ 21世紀、日本は復活できるか

- 1) 日本の21世紀戦略 ~文化の創造的価値を重視
 - ・ 「科学技術創造立国」路線 独創性&言語バリアの突破&高品質&低価格&実用性
 - ・ 国際分業のなかに活路を 絶対優位/比較優位 企業行動の世界標準化
- 2) 政治の改革 3-3)を参照
- 3) 企業社会の改革 ~経済体質の強化
 - ・ 戦後社会は、資本主義でなかった! 配当が低い=株主不在/累進課税/資産課税 ⇨持株会社の復活 ベンチャー企業育成(自由競争、間接金融)
 - ・ 入り口文化、年次別管理からの脱却 インターンシップ/年俸制/転職の自由
- 4) 教育の改革 ~新しいタイプの日本人形成を
 - ・ 小中学校:学区制の廃止、校長に経営権(含人事権)を、学校理事会の設置
 - ・ 高校:入試廃止、高検(高等学校学力検定試験)の導入、個人カリキュラムの編成
 - ・ 大学:入試廃止、学費アップ×奨学ローン×大学ごとの奨学金、研究ポスト公開
- 5) 憲法と自衛隊の改革 ~新しい安全保障の確立
 - ・ 自衛隊を国防軍に改組 日米安保条約を双務条約に
 - ・ 大連立による憲法改正 ポスト冷戦・ポスト9.11にふさわしい安全保障
- 6) 明瞭な世界戦略とメッセージを
 - ・ 非西欧先進国としての利点 言語障壁、非肉食文化、縮み文化の利点
 - ・ 国際協力の戦略を 教育援助(初等識字教育→人口↓) 在来農法・技術援助

北朝鮮から読み解く世界

～ポスト金正日にそなえる～

2004. 4. 24

橋爪大三郎

□1□ 中国と朝鮮半島

1) 中国はなぜ、朝鮮戦争に参戦したか

- 台湾海峡での、アメリカの武力による威嚇（海軍力）
→地上軍による朝鮮半島への参戦
- 中ソ論争により、北朝鮮への態度が両義的に

2) ポスト冷戦の朝鮮半島政策

- 韓国との国交 貿易・投資を呼び込む/日本を牽制/38度線の緊張緩和
- 金正日政権への懐疑 食糧・オイル支援/スパイ戦争/核技術の供与?
- アメリカの対北朝鮮政策への対抗

94年危機 → 日米安保再定義、ガイドライン改定、周辺事態法（台湾海峡は灰色に）
9・11以後の緊張 → イラク型介入への警戒 → 中国主導のポスト金正日を

3) 六者協議と中国の立場

- 北朝鮮……アメリカとの直接交渉 安全保障を確約させる 米・日・韓を分断
- アメリカ……核廃棄を最優先するが、戦争は回避したい 金正日政権の自壊を期待
- 中国……アメリカに貸しをつくって、台湾問題で譲歩を引き出したい

□2□ 日本の安全保障と北朝鮮

1) 日米安保体制で、対応できない

- 専守防衛 領海・領空を侵犯されてから対応 ～警察行為の延長
← 弾道ミサイル、テロ攻撃、核兵器
- 在日米軍 北の核攻撃→アメリカの反撃→北が米本土を攻撃? 抑止力にならない
- オウム事件の影 早川被告の北朝鮮入国 国松長官の狙撃

2) 日本のオプション

- 核武装 03年夏に、福田和也氏ほか総合雑誌で主張 ……アメリカの書かせ?
チェイニー副大統領が北京を訪問する直前、カーン博士の核爆発装置3個目撃証言
日本の場合、先制使用ができないとしたら、核があっても抑止力にならない
- 巡航ミサイル 桜田淳氏が主張 核兵器の副作用なし 供与は同盟国である証
通常兵器なので、先制使用（またはテロに対する報復使用）の可能性=抑止力
- テロ対策強化 これが本筋 危機管理を強化すれば、危機を縮減できる

□3□ 北朝鮮問題の本質

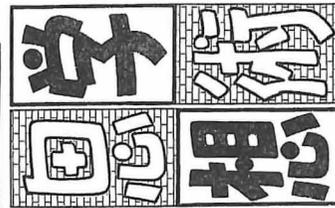
1) 大日本帝国崩壊→権力の空白

- 台湾・朝鮮は日本に併合～ナショナリズム未熟
- マルクス=レーニン主義 ソ連型の独裁国家
天皇制 日本起源の神聖国家
儒教国家 伝統朝鮮

2) 冷戦～鎖国構造 「ウリ式」……以上の要素が、純粋培養される

3) 北東アジア地域再統合の一環 共通基盤は経済?

2004年(平成16年) 1月16日(金曜日) 週刊誌 読書人おぼけ 第2520号 (4)



橋爪 大三郎

永遠の吉本隆明

本書を読みながらまず感 づいたのは、私たちが日本の、
いざいざ00年代に耳をたれ 瓜分するに非ず、時代『我回
た『我回』として著したな 幻燈』を「・ストロース
に『我回』と題して著したな 幻燈』を「・ストロース
や『我回』と題して著したな 幻燈』を「・ストロース
事件から目を醒めさせること 大(以下本参照)や、『言
したたかき 橋爪が明確 語』として』の品論の思
に示していることであっ 想的意味をシニールやサ
な。例えば、橋爪の指摘す ャムキーの先を行くもの
る吉本が詩人としての固有 として評価している(大(下
性、批評家——理論家とい 頁以下参照)と云うのは、わ
つとも、——の遺囑性の たし、この時代の吉本隆明
二つの極にまたがりながら においで、吉本を運して全
仕事をしつめた多くの其 世界がその普遍性と総体性
感、私たちが世代的にの においで、吉本を運して全
意識をもっとも認めた言 感——四世紀のフランク
葉「我回」を運するたため 人なら「ローマやギリヤを
に」(選定)に記され 運してその感したか、抑え
る「ローマやギリヤを ばら——とまはに待する
つたなるし、おのほは共同 のである。

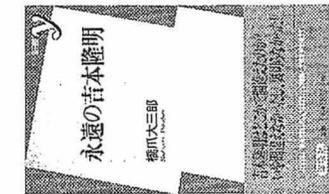
性から歴史的に目下までの 本書に於いて、私たちが
たという吉本の思想的核 礎を評するのは、80年代以
心に関する橋爪の指摘、 隣の吉本をどう評価するの
上記のモチーフへの回響 かという問題をめぐる橋爪
で書こうことが出来る。だが の見方・立場である。例
それ以上に橋爪の吉本に関 えば80年代以降の吉本に
する指摘でもっとも其感で 関しては、もっとも端的な
きは、吉本の思想がも 評価として『我回』が

る。吉本は「選定」の歴史 橋爪自身の80年代以降の
に就くことにより、資本主 社会主義としての仕事を支
義者として、けしから えている立場とも微妙にオ
ん、という立場もある。こ ーカアリアシアしながら、
れについて橋爪は「吉本隆 本書のもっとも核心的な部
明は、ついでに離れなかつ 分である百三十三頁以下の
た」としている。本書の 橋爪社会学と吉本の思想の
理想に立つとき、左翼たち 対質化にながら、ついで、
の見方は逆に吉本よりも、 その吉本の原理的かつ
イカリを対して、橋爪
が、その80年代以降
の日本一世界の社会主義から
らつかみ取った標準とされ
る「橋爪の戦争がなければ
いという条件を前提とする
社会主義」(言語・身体・
権力の三層)もついでに、
方途)が被置される。私は
この点にたいして、留保
をつけておきたい。思想が
ときは「抗軍的」(ハ
ーバート)な思考実験を
運して理念的・当局的規範
の次元を押し出すことは重
要な課題だからである。今
日本の思想に求められてい
るのは、現象主義ではなく、
理念的かつイカリを名
む「批判」の議論ではない
だろうか。それを教える
れるのが吉本だという気が
する。(なほはし、じゅん
いお氏—早稲田大学教授・
監修)史書)

思想的核心を明確に示す

橋爪社会学との対質化には留保を

高橋 順一



新書判・190頁・720円
洋泉社
4-89691-771-5

う氏は東京工業大学教授
・社会学専攻。東大学
院博士課程修了。著書に
『言語・身体・社会主義』
『仏教の言語論』『は
じめの構造主義』『言
論としての社会学』『性
象論』『言語学社会学の
原理』『政治の教皇』な
ど。一九八八(昭和六三)
年生。

2004-5-(6)

青年海外協力隊
平成16年1次隊
派遣前訓練講義

異文化理解と適応

世界の宗教と日本(人)

2004.5.10
橋爪大三郎
(東京工業大)

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『その先の日本国へ』(以上、勁草書房)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『冒険としての社会科学』(毎日新聞社)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『こんなに困った北朝鮮』(メタログ)、『正義・戦争・国家論』『自分を活かす思想/社会を生きる思想』『天皇の戦争責任』(以上、共著、径書房)、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』(共著、平凡社新書)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『世界がわかる宗教社会学入門』(筑摩書房)、『強いサラリーマン、へたばる企業』(共著・廣済堂出版)、『寛容のレシビ』(グラスビー著、解説・NTT出版)、『政治の教室』(PHP新書)、『日本人は宗教と戦争をどう考えるか』(共著・朝日新聞社)、『「心」はあるのか』(ちくま新書)、『人間にとって法とは何か』(PHP新書)、『永遠の吉本隆明』(洋泉社新書y)ほか。 <http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ 宗教とは何だろう

1) 宗教の定義は、むずかしい

・橋爪の定義：宗教「日常生活のなかで自明でない前提にもとづいてふるまうこと」

2) 宗教の役割……人びとの集まりである社会に、道徳・規範・社会構造を与える

・宗教は、OS (MAC, WINDOWS) のようなもの 優れているから普及すると限らない

3) 宗教は生活に密着している

・キリスト教徒10億+ムスリム10億+ヒンドゥー教徒10億+儒教徒10億+…

・日本人の宗教嫌いは、江戸時代、明治時代の「行政指導」のせい

□2□ ユダヤ教

1) 一神教 monotheism は、ただの多神教 polytheism の反対なのか

・宗教=神との契約=法律 なぜユダヤ民族は一神教を發明したか?

・ヤハウェ：戦争神/創造神 神は主/人間は奴隷 ユダヤ民族にとって救済とは?

2) なぜユダヤ教には、ややこしい宗教上の規則があるのか

・食物規制(血は飲まない、鱗のない魚はだめ、……) ⇒異教徒と結婚できる?

・安息日(ユダヤ教は土曜、キリスト教は日曜、イスラム教は金曜)

3) 「予言者」「法学者」はどういう活動をするのか

・予言者~神の声を聞き王と人民に警告(知識人の原型) モーゼ、エリヤ、イザヤ…

・パリサイ人~モーゼの律法に忠実な平信徒 シナゴークは教会なのか?

・ラビ~世俗の職業をもつかわらユダヤ法学者として活動

□3□ キリスト教

1) イエス=キリストを信じると、なぜ救われるのか

・イサクの犠牲 アブラハムがあわや一人息子を犠牲に ⇒イエスの礎

・パウロの学説 イエスはキリスト、神のひとり子 「原罪」

2) 『聖書』はなぜ、旧約+新約なのか

・最後の審判(神の裁き)とは 救済とは ハルマゲドンとは?

・人間は死んだらどうなるのか 誰が「神の国」に入る?

・なぜキリスト教は政教分離か? 教会(法律を守る) 皇帝(信仰を守る)

3) なぜ、いくつも教会があるのか

・東方教会(正教)~ビザンチン総主教/西方教会(カトリック)~ローマ教皇

・プロテスタント教会 ルターが免罪符の販売に抗議

カルヴァン派(→清教徒)、ルター派、クウェーカー、バプティスト…

・英国国教会(アングリカン・チャーチ)

・イエズス会(強固な軍隊的組織と献身)~反宗教改革

□4□ イスラム教をどう理解すればいいか

1) ムハンマドは、教祖なのか?

・ムハンマド=最大で最後の預言者(神の使徒) 『クルアーン』の啓示を受ける

・カリフ(神の使徒の代理人):ムスリム共同体(ウンマ)の統治者

2) イスラム法は、合理的なシステム

・法源:クルアーン/スンナ/イジュマー/キヤース 上位の法源が優先

・スンナ:ムハンマドの言動についての伝承(ハディース)

・イジュマー:法学者の一致した見解 法学者に手紙を出し判断を仰ぐ

・キヤース:三段論法による法学者の推論 ほかの法判断を拘束しない ×人の立法

3) イスラム教は「原理主義」なのか

・イスラム法の遵守 イスラム法は民族を超越している 礼拝/巡礼/食物規制

・救済:地上の幸福/来世の幸福(二重の幸福) 聖戦(ジハード)→天国

・西欧化(資本主義、民主主義)はなぜ困難なのか

□5□ 日本人の宗教をどう理解すればいいか

1) 神と仏を、同時に拝むことができるか?

・仏教…哲学的合理主義…世界の存在を否定 ×自己 ×靈魂 ×先祖崇拜 ×葬儀

・本地垂迹説:仏陀の神々 法華経の本仏思想がヒント

・切支丹弾圧 →宗門人別帳 →仏壇・位牌・葬式仏教

2) 日本は儒教社会なのか

・儒教…官僚の行動マニュアル 父系社会(年長者絶対)+官僚制(君主絶対)

・日本的儒学 忠孝一如(父に仕えるごとく主君に仕えよ) ⇒天皇制、日本株式会社

3) 「英霊」は神道の考えなのか

・垂加神道(山崎闇斎が唱えた) 儒教の君主=天皇=神の子孫

・平田神道(平田篤胤が唱えた) 死の穢れを否定 →霊は現世に実在

4) 「あなたは何を信じているの」と聞かれたら…?

・「無神論です」は、なぜまずいか?

2004-5-⑦

教育管理職研修会
大田区立教育センター

新しい時代の学校経営

2004.6.3
橋爪大三郎
(東京工業大)

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『その先の日本国へ』(以上、勁草書房)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『冒険としての社会科学』(毎日新聞社)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『正義・戦争・国家論』『自分を活かす思想/社会を生きる思想』『天皇の戦争責任』(以上、共著、径書房)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『こんなに困った北朝鮮』(メタログ)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』(共著、平凡社新書)、『選択・責任・連帯の教育改革 完全版』(共編著、勁草書房)、『世界がわかる宗教社会学入門』(筑摩書房)、『政治の教室』『人間にとって法とは何か』(PHP新書)、『「心」はあるのか』(ちくま新書)、『永遠の吉本隆明』(洋泉社新書y)、『言語/性/権力』(春秋社)ほか。

<http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ 公教育をめぐる

1) 公共性と税

- ・公共性の構造 ふつうのおじさん・おばさんの合議体が「公共 the public」
- ・税≒同意によらない財の移転(収奪) ⇒ 正当化が必要……公的サービス
- ・「公的サービスは、市場で代替できない分野に限定されるべき」: 原則は市場化

2) なぜ初等・中等教育に税を使うのか

- ・初等・中等教育は「社会インフラ」 機会の均等; 階層間の平等; 「普通」教育
- ・子どもの有無や人数と関係なく、税を集めて公教育を行なうことは、社会の利益
- ・聾学校・盲学校など特別なニーズに応ずる教育(コスト割高)も、公教育でカバー
- ・限られた子どもが親の選択で通う私立学校は、経費を親が負担するのが原則

3) なぜ高等教育には税を使わないか

- ・高等教育(大学や大学院)は、一部の子どもが通う。給与も高い。子ども=受益者
- ・高等教育を公教育として行なうと、逆格差が生じる。受益者負担→奨学金の全給をcf研究は、将来世代の利益になる公共財なので、現在世代から集めた税を使うべき。

□2□ 学校自由化をめぐる

1) 学区制のどこがよくないか

- ・親が学校を選べない~「子どもは人質」 ⇒ 学校に、教育をよくする動機が働かない
 - ・学校選択性 + 校長の権限強化+親の教育参画+教育の外部評価+教員異動の自由
 - ・画一化教育から、教育の自由化(公設民営)へ 教育の過程でなく結果を管理
- cf アメリカは完全学区制(自治体の権限が強い) ⇒ 格差(親は住所を選択) ⇒ 社会解体

2) チャータースクール

- ・既存の公立校の「バイパス」 既存校の一人当たり経費と同額の補助を受ける

- ・チャータースクールは「公設民営」の一種 正規の学校/自治体等と契約(チャーター)
 - ・チャータースクールは、既存校より「優れた」教育を行なったことの立証責任がある
- 3) フリースクール/オルタナティブ・スクール
- ・正規の学校ではない ~ 公教育ではない ~ 税金の補助は受けられないのがふつう
 - ・自由に開設できるので、ユニークな試みが可能 (無責任なものもできやすい)
 - ・経費は親の負担→経費が高い→階層格差 日本の塾・予備校など学校外教育がこれ
 - ・フリースクールの修了者が、正規の学校教育に復帰・編入できるシステムが重要
- 4) バウチャー(教育クーポン)
- ・税金をバウチャー(教育クーポン)にして配布。(現金と違い学校にしか使えない)
 - ・私立学校やフリースクールにも払えるので、公教育が弱体化する恐れあり(→格差)
 - ・バウチャーを配っただけでは、需要サイドの話。供給サイドの育成策が必要。

□3□ 学校経営をめぐる

1) 選択・責任・連帯の教育改革 1999社会経済生産性本部・社会経済特別委員会報告

- ・小中: 学区制を廃止し、校長の権限を強化。学校理事会を設け、教育委員会を廃止。
- ・高校: 高校入試を廃止し、校長の権限を強化。高校卒業検定試験(高検)を導入。
- ・大学: 大学入試、学生定員を廃止。キックアウト。学費値上げ+奨学ローン全給。

2) 校長は学校経営者である

- ・学校は、官僚組織(規則)でなく教育機関(人間)。その顔(責任者)が校長。
- ・学校は、親に責任をとる。(親は子どもに責任をとる) 親(納税者)が学校を選ぶ
- ・責任…説明責任(プラン)・教育責任(目にみえる効果)・結果責任(期待に応える)
- ・校長は、理念を実現すべく、教員チームの協力をえて事業を実施 権限/責任
- ・学校理事会…親を代表し、校長を監督する 校長の任免・評価

3) 学校は、どういう事業体なのか

- ・「公益法人」 市場の評価を受けるが、利益が目的ではない。
- ・教育の効果は、遠い将来に判明 ×親の満足 ×子どもの満足 ×成績の伸び
教育の効果を判定する絶対の基準はない ~ 「大人の知恵と責任」で将来を予測
- ・教員の自発性・専門能力を伸ばし、よいチームワークで、教育を行なうこと
×教室独立王国 教員の教育を指導できなければ、学校とは言えない
- ・学校は、共同体ではなく、事業体(目的をもった組織)である 権限/責任/統制

4) 初等・中等教育(小中高=準義務教育)の使命はなにか

- a) 社会の共通基盤を形成(識字、社会訓練) 「学力をつける」→就職→人権問題
進学や就職の実績は、親の期待であり、子どもの将来がかかっている
学校外教育が全盛の日本の現状は、親の公教育不信と学校教育の機能不全を証明
 - b) 個人の幸せの追求 「個性を発見する」→ライフコースの設計→生きる意味
一人ひとりの自立と生き方を支援するのが、準義務教育の役割 多様性と柔軟性
 - c) 安価にサービスを提供 親や納税者に負担をかけない 経済効率
- ・ a)、b)、c)をいかに両立させるか……学校経営の腕の見せどころ

朝日カルチャー
センター@新宿
住友ビル48階

世界がもっとわかる

宗教社会学

2004. 7. 3
橋爪大三郎
(東京工業大)

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『その先の日本国へ』(以上、勁草書房)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『冒険としての社会科学』(毎日新聞社)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『こんなに困った北朝鮮』(メタログ)、『正義・戦争・国家論』『自分を活かす思想/社会を生きる思想』『天皇の戦争責任』(以上、共著、径書房)、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』(共著、平凡社新書)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『世界がわかる宗教社会学入門』(筑摩書房)、『寛容のレシピ』(グラスビー著、解説・NTT出版)、『政治の教室』(PHP新書)、『「心」はあるのか』(ちくま新書)、『永遠の吉本隆明』(洋泉社新書y)、『人間にとって法とは何か』(PHP新書)、『日本人は宗教と戦争をどう考えるか』(共著・朝日新聞社)、『言語/性/権力』(春秋社)ほか。

<http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ 宗教とはどういうものなのか

1) 宗教の定義は、むずかしい

- ・宗教は、神を信ずること/死後の世界を扱うこと/霊を信ずること/奇跡を信じる?
- ・橋爪の定義: 宗教「日常生活のなかで自明でない前提にもとづいてふるまうこと」

2) 宗教社会学とは、なんだろうか

- ・社会学: 人びとの行為を説明し、理解し、予測すること。それには社会構造に注目!
- ・宗教の役割……人びとの集まりである社会に、道徳・規範・社会構造を与える
- ・宗教は、OS (MAC, WINDOWS) のようなもの 優れているから普及すると限らない

3) 宗教は生活に密着している

- ・キリスト教徒10億+ムスリム10億+ヒンドゥー教徒10億+儒教徒10億+…
- ・日本人の宗教嫌いは、江戸時代、明治時代の「行政指導」のせい

Q ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の関係は、どう理解すればいいのか?

I 一神教

□2□ ユダヤ教

1) 一神教 monotheism は、ただの多神教 polytheism の反対なのか

- ・宗教=神との契約=法律 なぜユダヤ民族は一神教を発明したか? ~都市国家
- ・ヤハウェ: 最初は戦争神→のちに創造神 神は主/人間は僕(奴隷)
- ・ユダヤ民族にとって救済とは? 神の裁き: 覇権国家・支配民族となること

Q キリスト教の聖典は『聖書』、イスラム教は『クルアーン』、ではユダヤ教は?

2) なぜユダヤ教には、ややこしい宗教上の規則があるのか

- ・食物規制(血は飲まない、鱗のない魚はだめ、……) ⇒異教徒と結婚できない
- ・安息日 厳密ルール主義…日常生活のルールを神との契約(宗教的義務)にする
- 3) 「預言者」「法学者」はどういう活動をするのか
 - ・預言者~神の声を聞き王や人民に警告(知識人の原型) モーゼ、エリヤ、イザヤ…
 - ・パリサイ人~モーゼの律法に忠実な平信徒 シナゴークは教会なのか?
 - ・ラビ~世俗の職業をもつかわら、ユダヤの聖典に詳しい法学者として活動

□3□ キリスト教

1) イエス=キリストを信じると、なぜ救われるのか

- ・イエスの説教は、旧約の引用が多い(例: なぜお見捨てになったのですか←詩篇22) イエスは、旧約(イザヤら)の預言するメシア(=キリスト)と考えられた
- ・イサクの犠牲 アブラハムがあわや一人息子を犠牲に ⇒イエスの磔刑
- ・パウロの学説 イエスはキリスト、神のひとり子 「原罪」

2) 『聖書』はなぜ、旧約+新約なのか

- ・最後の審判(神の裁き)とは 救済とは ハルマゲドンとは?
- ・人間は死んだら復活するのか 誰が「神の国」に入る?
- ・なぜキリスト教は政教分離なのか? 教会(法律を守る)≠皇帝(信仰を守る)

3) なぜ、キリスト教は宗教改革を起こしたのか

- ・東方教会(判別正教)~ビザンチン総主教/西方教会(ローマカトリック)~ローマ教皇
- ・プロテスタント ルターが免罪符の販売に抗議 聖書のドイツ語訳
カルヴァンは『キリスト教綱要』を著す~予定説 →ピューリタン(清教徒)
- ・教会をつくれ、聖職者をおけとは、『聖書』に書いてない。∴教会を否定できる
- Q 共産主義は、共産党を否定できるか
- Q 創価学会は、日蓮正宗の宗門を否定できるか

□4□ イスラム教をどう理解すればいいか

1) ムハンマドは、教祖なのか?

- ・ムハンマド=最大で最後の預言者(神の使徒) 『クルアーン』の啓示を受ける
- ・カリフ(神の使徒の代理人): ムスリム共同体(ウンマ)の統治者

2) イスラム法は、合理的なシステム

- ・法源: クルアーン/スンナ/イジュマー/キャース 上位の法源が優先
- ・スンナ: ムハンマドの言動についての伝承(ハディース)
- ・イジュマー: 法学者の一致した見解 法学者に手紙を出し判断を仰ぐ
- ・キャース: 三段論法による法学者の推論 ほかの法判断を拘束しない ×人の立法

3) イスラム教は「原理主義」なのか

- ・イスラム法の遵守 イスラム法は民族を超越している 礼拝/巡礼/食物規制
- ・救済: 地上の幸福/来世の幸福(二重の幸福) 聖戦(ジハード)→天国
- ・西欧化(資本主義、民主主義)はなぜ困難なのか

II 仏教

□5□ 初期仏教

1) 仏陀と(一神教の)神は、どこが違うか

- ・神≠仏 神は、(1)知的生命体で、(2)人間と血縁関係がなく、(3)人間を創造した
仏は、人間の極限状態（人間の究極の可能性、すなわち、人間の一種） 人≡仏
- ・仏教は、仏を尊敬するが、信仰の対象とはしない 法前仏後 cf 神前法後

2) 覚り（正覚）とはなにか

- ・この世界の真理（因果法則＝ダルマ）を認識する＝覚り＝成仏＝解脱（輪廻を脱する）
有情（人間&天人&動物）は、輪廻の法則に従う だが、修行して解脱できる

Q 仏教と、自然科学とは、どこが違うか

3) サンガ（僧伽）：出家修行者のギルド

- ・出家者がサンガをつくるのは古代インドの習慣 釈尊も出家し、師の下で修行した
- ・覚り→サンガを形成（招来比丘）→戒律の制定 界（サンガの範囲） 羯磨
- ・覚りはあるのか Th. 覚りがあると前提することで、覚りは実在し始める
- 1) 覚りを訊ねあうゲーム
- 2) 釈尊＝仏陀を標本とするゲーム 三宝（仏法僧） 三帰依
- 3) 釈尊の言説（経）を伝持するゲーム 経／律／論
- 4) 釈尊の戒を守るゲーム 『波羅提木叉』（戒本、律蔵）
- 5) 戒＝律違反を告白しあうゲーム 例：妄語戒

□5□ 大乘仏教

基本的な概念……菩薩／空／般若波羅蜜／極樂往生／曼荼羅／密教／禪宗

III 儒教

□6□ 儒教

1) 伝統中国の思想

- ・長幼の序（年長者の支配）～父系血縁集団（宗族）～孝～差別道徳 家族…農業
- ・官僚制（君臣の義）～忠 貴族／官僚／宦官
- ・過去が正しさの基準 聖人：理想化された古代の政治家…制度を制定した

2) 孔孟の思想

- ・孔子 教育（士が官僚となるのを手助け）／古典の編纂 伝統主義だが革新的
- ・孟子 湯武放伐論（周の武王が殷の紂王を討ったのは正しい）～革命 井田制
- ・徳（為政者の人間性）による支配 法家に対しては批判的

3) 儒教の正統論

- ・朱子学 官僚（読書人）の政治参与を正当化（天の気→人→科挙で好成绩→官僚）

・儒教のジレンマ

- (1) 忠と孝の矛盾 父が誤っていたら／皇帝が子に父を殺せと命じたら／父が反逆者
だったら Cf 毛沢東は紅衛兵に父を批判させた
- (2) 忠は、絶対的か、条件つきなのか 君主に反逆してよいのはどういう場合か？
孟子は、天の意思は、民衆の動向に表れると考えた →結果論になる？

IV 日本の宗教

□7□ 日本の宗教

1) 日本の仏教

- ・仏教…哲学的合理主義…世界の实在を否定 ×自己 ×靈魂 ×先祖崇拜 ×葬儀
- ・日本人は、仏と神を区別しなくなった 神仏習合～本地垂迹説（←法華經に根拠）
- ・切支丹弾圧 →宗門人別帳 →仏壇・位牌・葬式仏教

2) 日本の儒教

- ・山崎闇斎学派…湯武放伐論を否定（君臣関係の絶対化） Cf 浅見綱斎『靖献遺言』
日本に父系集団なし ⇒忠孝一如（父に仕えるごとく主君に仕えよ） ⇒天皇制
例）赤穂義士事件（主君の仇討ち）…自分の属する機能集団が忠誠の対象になる
- ・勤皇思想 日本国の正統な統治者は天皇～臣下としての日本国民を形成

3) 神道：「英霊」は神道の考えなのか

- ・伊勢神道（度会行忠が唱えた） 天照大神～天皇～政治／豊受大神～神道 幽契
- ・吉田神道（吉田兼俱が唱えた） 八百万神の根源神として国常立尊を想定
- ・垂加神道（山崎闇斎が唱えた） 儒教の君主＝天皇＝神の子孫
- ・平田神道（平田篤胤が唱えた） 死の穢れを否定 →霊は現世に実在
⇒維新の国事殉難者は、この国土に英霊として常在し、子孫を守っている⇒靖国神社

〔資料〕

2003「古典精読／旧約聖書」『オブラ』3-6:148.

プリント「宗教絵画・宗教音楽」

長井真琴 1929→1975『巴・漢・和对訳 戒律の根本（比丘波羅提木叉）』国書刊行会

バッハ・カンタータ「ああ神よ、天よりご覧ください」（歌詞対訳）

詩篇 2 2、詩篇 3 1 ←松田伊作訳 1998『詩篇』（旧約聖書X I）岩波書店

The New Oxford Annotated Bible (New Revised Standard Version) 1991 Oxford UP

黒田壽郎訳 1980『40のハディース』イスラミックセンター・ジャパン

浅見綱斎 1939『靖献遺言』岩波文庫

13 多くの牛が私を囲んだ。

12 私から遠ざからないで下さい、
苦難が近いからです、
たすけ手がないからです。

11 あなたの^上に私は胎内から投げ出された、
わが母の腹の中にある時から、わが神はあなた。
10 まことにあなたこそ、私を母の腹から引きだし
母の乳房で育てた方。

9 ヤハウエにまかせろ、彼を逃れさせ
彼を救い出さだろう、お気に入りなんだから」と。
8 私を見る者はみな私をあざ笑い、
唇をとがらし、頭を振る――
7 しかし私は、叱けらで、人ではない。
ひとの笑い草で、民の軽蔑的。

6 あなたに彼らが呼ばわると彼らは逃れられ、
あなたに彼らが投げ頼むと彼らは恥をかかなかった。
5 彼らが振り頼むと、あなたは彼らを逃れさせた。
4 あなたにわれらの父祖は振り頼み、
3 わが神よ、ひる私が呼んでも、あなたは答えず、
夜もまた私に沈黙はない。

2 わが神よ、わが神よ、なにゆえ私をお棄てになったのか。
わが救いから、わが呻きの言葉(から)、遠く。
1 しかしあなたは、聖なる方、
イスラエルの諸々の讃歌に座する方。

22 指揮者に、「曙光の雌鹿」で、ダビデの歌。

22

う、あなたの全能を。

15 日脚まで、振り行く痛楚を痛感にたとえた描写が、

14 4節まで、振り行く痛楚を痛感にたとえた描写が、
13 5、6、13 参照。
12 5、6、13 参照。
11 5、6、13 参照。
10 5、6、13 参照。
9 5、6、13 参照。
8 5、6、13 参照。
7 5、6、13 参照。
6 5、6、13 参照。
5 5、6、13 参照。
4 5、6、13 参照。
3 5、6、13 参照。
2 5、6、13 参照。
1 5、6、13 参照。

と大まかに、七十人訳等では措辞。

14 ヨブ 36、イザ 44。しかしここでは、次行と並
行して、人々の悪口の引出しである。

10 5、6、13 参照。
9 5、6、13 参照。
8 5、6、13 参照。
7 5、6、13 参照。
6 5、6、13 参照。
5 5、6、13 参照。
4 5、6、13 参照。
3 5、6、13 参照。
2 5、6、13 参照。
1 5、6、13 参照。

11 唇をとがらす はここだけだが、頭を振る。
(5、6、13 参照、イザ 44、ヨブ 36、哀 12)と
ともに痛楚の身振。

12 貞淑は、かれは彼を殺すから、敵の皮肉

14 地の有力者はみな食べてひれ伏した。
塵に下る者はみなかれの前に膝を屈めよ。

13 わが魂をかれは回復させ
義の道筋に私を導く、
12 思い切りの水辺に私をとまらう。
11 ヤハウエがわが牧者、私に欠けるものはない。
10 若草の牧場にかれは私をいこわせ、

23

ダビデの歌。

11 かれが(これを行なった)のだから。

10 生まれ出る民に。

9 彼らは来て、かれの正義を告げよ、

8 わが主からこの代に述べられよ。

7 しかしその魂を、かれは生かさなかった。

6 地の有力者はみな食べてひれ伏した。
塵に下る者はみなかれの前に膝を屈めよ。

5 諸国民の氏族はことごとく。

4 そしてひれ伏せ、あなたの前に

3 地の隅々までことごとく。

2 思い起してヤハウエに立ち帰れ、

1 ヤハウエを讃美せよ、かれを求める者たちは。
あなたたちの心は、とわに生きよ。

11 わが誓約を私は果たす、かれを畏れる者たちの前で。
10 わが讃美はあなたから、大きな集会の中で。
9 貧しき者たちは食べて満ち足りよ。

8 彼がかれに助けを求めたとき、かれは聞いたのだ。

7 顔を彼から隠さず、
6 困窮者のみじめさ。

15 正しい導き手、救い主たるヤハウエにちなむしく
の尊 5、11、17、19、28、31、32、33、34、35、36、37、38、39、40、41、42、43、44、45、46、47、48、49、50、51、52、53、54、55、56、57、58、59、60、61、62、63、64、65、66、67、68、69、70、71、72、73、74、75、76、77、78、79、80、81、82、83、84、85、86、87、88、89、90、91、92、93、94、95、96、97、98、99、100、101、102、103、104、105、106、107、108、109、110、111、112、113、114、115、116、117、118、119、120、121、122、123、124、125、126、127、128、129、130、131、132、133、134、135、136、137、138、139、140、141、142、143、144、145、146、147、148、149、150、151、152、153、154、155、156、157、158、159、160、161、162、163、164、165、166、167、168、169、170、171、172、173、174、175、176、177、178、179、180、181、182、183、184、185、186、187、188、189、190、191、192、193、194、195、196、197、198、199、200、201、202、203、204、205、206、207、208、209、210、211、212、213、214、215、216、217、218、219、220、221、222、223、224、225、226、227、228、229、230、231、232、233、234、235、236、237、238、239、240、241、242、243、244、245、246、247、248、249、250、251、252、253、254、255、256、257、258、259、260、261、262、263、264、265、266、267、268、269、270、271、272、273、274、275、276、277、278、279、280、281、282、283、284、285、286、287、288、289、290、291、292、293、294、295、296、297、298、299、300、301、302、303、304、305、306、307、308、309、310、311、312、313、314、315、316、317、318、319、320、321、322、323、324、325、326、327、328、329、330、331、332、333、334、335、336、337、338、339、340、341、342、343、344、345、346、347、348、349、350、351、352、353、354、355、356、357、358、359、360、361、362、363、364、365、366、367、368、369、370、371、372、373、374、375、376、377、378、379、380、381、382、383、384、385、386、387、388、389、390、391、392、393、394、395、396、397、398、399、400、401、402、403、404、405、406、407、408、409、410、411、412、413、414、415、416、417、418、419、420、421、422、423、424、425、426、427、428、429、430、431、432、433、434、435、436、437、438、439、440、441、442、443、444、445、446、447、448、449、450、451、452、453、454、455、456、457、458、459、460、461、462、463、464、465、466、467、468、469、470、471、472、473、474、475、476、477、478、479、480、481、482、483、484、485、486、487、488、489、490、491、492、493、494、495、496、497、498、499、500、501、502、503、504、505、506、507、508、509、510、511、512、513、514、515、516、517、518、519、520、521、522、523、524、525、526、527、528、529、530、531、532、533、534、535、536、537、538、539、540、541、542、543、544、545、546、547、548、549、550、551、552、553、554、555、556、557、558、559、560、561、562、563、564、565、566、567、568、569、570、571、572、573、574、575、576、577、578、579、580、581、582、583、584、585、586、587、588、589、590、591、592、593、594、595、596、597、598、599、600、601、602、603、604、605、606、607、608、609、610、611、612、613、614、615、616、617、618、619、620、621、622、623、624、625、626、627、628、629、630、631、632、633、634、635、636、637、638、639、640、641、642、643、644、645、646、647、648、649、650、651、652、653、654、655、656、657、658、659、660、661、662、663、664、665、666、667、668、669、670、671、672、673、674、675、676、677、678、679、680、681、682、683、684、685、686、687、688、689、690、691、692、693、694、695、696、697、698、699、700、701、702、703、704、705、706、707、708、709、710、711、712、713、714、715、716、717、718、719、720、721、722、723、724、725、726、727、728、729、730、731、732、733、734、735、736、737、738、739、740、741、742、743、744、745、746、747、748、749、750、751、752、753、754、755、756、757、758、759、760、761、762、763、764、765、766、767、768、769、770、771、772、773、774、775、776、777、778、779、780、781、782、783、784、785、786、787、788、789、790、791、792、793、794、795、796、797、798、799、800、801、802、803、804、805、806、807、808、809、810、811、812、813、814、815、816、817、818、819、820、821、822、823、824、825、826、827、828、829、830、831、832、833、834、835、836、837、838、839、840、841、842、843、844、845、846、847、848、849、850、851、852、853、854、855、856、857、858、859、860、861、862、863、864、865、866、867、868、869、870、871、872、873、874、875、876、877、878、879、880、881、882、883、884、885、886、887、888、889、890、891、892、893、894、895、896、897、898、899、900、901、902、903、904、905、906、907、908、909、910、911、912、913、914、915、916、917、918、919、920、921、922、923、924、925、926、927、928、929、930、931、932、933、934、935、936、937、938、939、940、941、942、943、944、945、946、947、948、949、950、951、952、953、954、955、956、957、958、959、960、961、962、963、964、965、966、967、968、969、970、971、972、973、974、975、976、977、978、979、980、981、982、983、984、985、986、987、988、989、990、991、992、993、994、995、996、997、998、999、1000

14 正しい導き手、救い主たるヤハウエにちなむしく
の尊 5、11、17、19、28、31、32、33、34、35、36、37、38、39、40、41、42、43、44、45、46、47、48、49、50、51、52、53、54、55、56、57、58、59、60、61、62、63、64、65、66、67、68、69、70、71、72、73、74、75、76、77、78、79、80、81、82、83、84、85、86、87、88、89、90、91、92、93、94、95、96、97、98、99、100、101、102、103、104、105、106、107、108、109、110、111、112、113、114、115、116、117、118、119、120、121、122、123、124、125、126、127、128、129、130、131、132、133、134、135、136、137、138、139、140、141、142、143、144、145、146、147、148、149、150、151、152、153、154、155、156、157、158、159、160、161、162、163、164、165、166、167、168、169、170、171、172、173、174、175、176、177、178、179、180、181、182、183、184、185、186、187、188、189、190、191、192、193、194、195、196、197、198、199、200、201、202、203、204、205、206、207、208、209、210、211、212、213、214、215、216、217、218、219、220、221、222、223、224、225、226、227、228、229、230、231、232、233、234、235、236、237、238、239、240、241、242、243、244、245、246、247、248、249、250、251、252、253、254、255、256、257、258、259、260、261、262、263、264、265、266、267、268、269、270、271、272、273、274、275、276、277、278、279、280、281、282、283、284、285、286、287、288、289、290、291、292、293、294、295、296、297、298、299、300、301、302、303、304、305、306、307、308、309、310、311、312、313、314、315、316、317、318、319、320、321、322、323、324、325、326、327、328、329、330、331、332、333、334、335、336、337、338、339、340、341、342、343、344、345、346、347、348、349、350、351、352、353、354、355、356、357、358、359、360、361、362、363、364、365、366、367、368、369、370、371、372、373、374、375、376、377、378、379、380、381、382、383、384、385、386、387、388、389、390、391、392、393、394、395、396、397、398、399、400、401、402、403、404、405、406、407、408、409、410、411、412、413、414、415、416、417、418、419、420、421、422、423、424、425、426、427、428、429、430、431、432、433、434、435、436、437、438、439、440、441、442、443、444、445、446、447、448、449、450、451、452、453、454、455、456、457、458、459、460、461、462、463、464、465、466、467、468、469、470、471、472、473、474、475、476、477、478、479、480、481、482、483、484、485、486、487、488、489、490、491、492、493、494、495、496、497、498、499、500、501、502、503、504、505、506、507、508、509、510、511、512、513、514、515、516、517、518、519、520、521、522、523、524、525、526、527、528、529、530、531、532、533、534、535、536、537、538、539、540、541、542、543、544、545、546、547、548、549、550、551、552、553、554、555、556、557、558、559、560、561、562、563、564、565、566、567、568、569、570、571、572、573、574、575、576、577、578、579、580、581、582、583、584、585、586、587、588、589、590、591、592、593、594、595、596、597、598、599、600、601、602、603、604、605、606、607、608、609、610、611、612、613、614、615、616、617、618、619、620、621、622、623、624、625、626、627、628、629、630、631、632、633、634、635、636、637、638、639、640、641、642、643、644、645、646、647、648、649、650、651、652、653、654、655、656、657、658、659、660、661、662、663、664、665、666、667、668、669、670、671、672、673、674、675、676、677、678、679、680、681、682、683、684、685、686、687、688、689、690、691、692、693、694、695、696、697、698、699、700、701、702、703、704、705、706、707、708、709、710、711、712、713、714、715、716、717、718、719、720、721、722、723、724、725、726、727、728、729、730、731、732、733、734、735、736、737、738、739、740、741、742、743、744、745、746、747、748、749、750、751、752、753、754、755、756、757、758、759、760、761、762、763、764、765、766、767、768、769、770、771、772、773、774、775、776、777、778、779、780、781、782、783、784、785、786、787、788、789、790、791、792、793、794、795、796、797、798、799、800、801、802、803、804、805、806、807、808、809、810、811、812、813、814、815、816、817、818、819、820、821、822、823、824、825、826、827、828、829、830、831、832、833、834、835、836、837、838、839、840、841、842、843、844、845、846、847、848、849、850、851、852、853、854、855、856、857、858、859、860、861、862、863、864、865、866、867、868、869、870、871、872、873、874、875、876、877、878、879、880、881、882、883、884、885、886、887、888、889、890、891、892、893、894、895、896、897、898、899、900、901、902、903、904、905、906、907、908、909、910、911、912、913、914、915、916、917、918、919、920、921、922、923、924、925、926、927、928、929、930、931、932、933、934、935、936、937、938、939、940、941、942、943、944、945、946、947、948、949、950、951、952、953、954、955、956、957、958、959、960、961、962、963、964、965、966、967、968、969、970、971、972、973、974、975、976、977、978、979、980、981、982、983、984、985、986、987、988、989、990、991、992、993、994、995、996、997、998、999、1000

13 11、12、13、14、15、16、17、18、19、20、21、22、23、24、25、26、27、28、29、30、31、32、33、34、35、36、37、38、39、40、41、42、43、44、45、46、47、48、49、50、51、52、53、54、55、56、57、58、59、60、61、62、63、64、65、66、67、68、69、70、71、72、73、74、75、76、77、78、79、80、81、82、83、84、85、86、87、88、89、90、91、92、93、94、95、96、97、98、99、100、101、102、103、104、105、106、107、108、109、110、111、112、113、114、115、116、117、118、119、120、121、122、123、124、125、126、127、128、129、130、131、132、133、134、135、136、137、138、139、140、141、142、143、144、145、146、147、148、149、150、151、152、153、154、155、156、157、158、159、160、161、162、163、164、165、166、167、168、169、170、171、172、173、174、175、176、177、178、179、180、181、182、183、184、185、186、187、188、189、190、191、192、193、194、195、196、197、198、199、200、201、202、203、204、205、206、207、208、209、210、211、212、213、214、215、216、217、218、219、220、221、222、223、224、225、226、227、228、229、230、231、232、233、234、235、236、237、238、239、240、241、242、243、244、245、246、247、248、249、250、251、252、253、254、255、256、257、258、259、260、261、262、263、264、265、266、267、268、269、270、271、272、273、274、275、276、277、278、279、280、281、282、283、284、285、286、287、288、289、290、291、292、293、294、295、296、297、298、299、300、301、302、303、304、305、306、307、308、309、310、311、312、313、314、315、316、317、318、319、320、321、322、323、324、325、326、327、328、329、330、331、332、333、334、335、336、337、338、339、340、341、342、343、344、345、346、347、348、349、350、351、352、353、354、355、356、357、358、359、360、361、362、363、364、365、366、367、368、369、370、371、372、373、374、375、376、377、378、379、380、381、382、383、384、385、386、387、388、389、390、391、392、393、394、395、396、397、398、399、400、401、402、403、404、405、406、407、408、409、410、411、412、413、414、415、416、417、418、419、420、421、422、423、424、425、426、427、428、429、430、431、432、433、434、435、436、437、438、439、440、441、442、443、444、445、446、447、448、449、450、451、452、453、454、455、456、457、458、459、460、461、462、463、464、465、466、467、468、469、470、471、472、473、474、475、476、477、478、479、480、481、482、483、484、485、486、487、488、489、490、491、492、493、494、495、496、497、498、499、500、501、502、503、504、505、506、507、508、509、510、511、512、513、514、515、516、517、518、519、520、521、5

バシヤンの猛牛たちが私を包圍した。
 彼らは私に向かって口をあけた、
 食い裂いて吼える獅子だ。
 水のように私は注ぎ出され、
 わが骨はことごとく外れ、
 わが心は蠟のようになり、
 わが体のうちで溶けた。
 わが力は十指のように乾き、
 わが舌は頸に張り付き、
 あなたは私を死の魔の中に置いた。

まことに犬どもが私を囲んだ。
 悪をなす者の群れが私を取り囲んだ、
 獅子のように、わが手と足を。
 私はわが骨をみな数えることができる、
 彼らは目をとめて私を見おろすがよい。
 彼らはわが着物を自分たちで分け、

「ガリラヤ湖東方のゴラン高原を念む詩篇」 不16、
 出15:1、エゼ28:18、アモ4:1。

「異来七人歌等」…獅子のように。いずれにしても獅子は勇敵形(マ、二〇、二二、二七、三〇等)。

「全身の無力状態をいうのであろう。ヨナ三、エゼ七」。

「原注の読み詩を案 わが口乾くわあじ」。

「ものが言えなくなるの意」ヨナ三、ヨナ三10、エゼ28参照。

「病魔をなす者、悪をなす者」にたとえた(13節)は、それとも事実、悪人が病人の無力につけこんで手足を縛り、衣服を奪った(18、19節)のか不明。

「獅子のように、そえアキラは縛った、七人歌」は「埋めた」とする。

「やせ衰えたので」。

わが衣の上に鎌を落とす。

しかしあなたは、ヤハウエよ、遠きからしないで下さい。
 わが力なる方よ、私をたすけに急いで下さい。
 救い出して下さい、剣からわが魂を。
 犬の手からわがただ一つのものを。
 私をお救い下さい、獅子の口から、
 また野牛の角から。

あなたは私にお答えになった。
 私はあなたの名を述べよう、わが兄弟に、
 集會のなかで私はあなたを讃美しよう。

「ヤハウエを畏れる者たちよ、かれを讃美せよ」
 ヤコブのすべての裔よ、かれをうやまえ、
 かれに戦け、イスラエルのすべての裔よ。
 まことに、かれは軽んぜず
 暇なかつたのだ。

「着物は遺教、一衣は遺教」。

「ここで初めてヤハウエの名が呼ばれる」。

「同じ表現がヨナ三、ヨナ三(二)とエゼ12にも出る」。

「剣、人の手(二)参照は、次節の獅子の口、野牛の角とともに、生命を脅かすものの暗喩。ただ一つものは生命(わが魂)と勇気を指す。ヨナ三」。

「聞きはけて下さった」という叫びの注を参照。こうして嘆きから賛美(23)の節に転換する」。

「七人歌等では私の惨めさを、前文に就く」。

「わが兄弟は集會に集うヤハウエを畏れる者たち(21)節。21節節がこの兄弟たちへの呼び掛け」。

「あなたに、ヤハウエよ、私は呼びかけ、
 わが主に私は憐れみを乞うた、—
 何の益があるのですか、わが血に、私が穴に下ることに。
 塵があなたを讀み、あなたの眞実を告げるのですか。
 お聞き下さい、ヤハウエ、そして私を憐れんで下さい。
 ヤハウエよ、わがためのたすけ手となって下さい」と。

「あなたは愛え、
 私にまどわせた。
 歌って無さぬために。」

「えに私はあなたを讀ませよう」。

31

「指揮者に。ダビデの歌」。

「あなたのもとに、ヤハウエよ、私は逃げます」。

私に恥をかかせないで下さい、とこしえに。
 あなたの正義によって私を逃れさせて下さい。
 私に耳を傾け、
 速やかに私を救い出して下さい。
 わがために、とりでの岩となって下さい、
 岩の家となって下さい、私を救うために。
 まことに、わが敵、わが岩は、あなた。
 あなたの名のゆえに—
 あなたが私を導き、私をともなって下さい。
 あなたが私を引き出して下さい、
 彼らが私に仕掛けた網から。
 まことに、あなたはわがとりで。
 あなたの手に私はわが霊をゆだねます。

「あなたは私を買い戻して下さい、ヤハウエよ、眞実の神よ」。
 「私は憎む、虚しく空なるものを護る者を」
 そして私はヤハウエに抛り頼む。

「本行は前七回義的に並行し、坑に下る者ら(マテ17:1、ケレ1)坑に私が下ること)は死人を指す(不1)」。生がすとは、廻りではなく、漸死の悔や苦しみのからの敵い—神との關係の回復—を指す(ヨナ三、ヨナ三、ヨナ三、ヨナ三)。
 「名前」は、叫ぶべき記憶されているもの(ヨナ三)の思い出(マテ17)とも訳される。ヨナ三、ヨナ三、ヨナ三、出15、イザ18、ホセ22。
 「剣は堪えぬ敵の時」マテ6、ヨナ三、ヨナ三、ヨナ三、ヨナ三、ヨナ三参照。
 「人が揺るがされない」という暗喩はヨナ三に既出。その注を参照。
 「七人歌」あなたはわが美に力をわたした。
 「ヨナ三」の注を参照。
 「血は死なせ、穴は墓穴を(不10)、脚は死人を指す。死行は神を讃美しないから自分の死は神には無意味だ」という注を参照。
 「獅子」は、神の捕縛らしい。ここでは敵の象徴(次行参照。ヨナ三、ヨナ三、エゼ13、ヨナ三、ヨナ三)。和布(原語はヨナ三)でキリシヤ語等を織り込んで山羊等の毛皮で、頭袋(ヨナ三)や外套(マテ13)としても用いられたが、たいていは悲しみの時にまとう衣を指す(ヨナ三、不10、ヨナ三、マテ13、イザ18、エゼ18)。

「ヨナ三等のように、原文、死の福音を愛する」と訳す、七人歌、わが死行によってわがを助る」。
 「重い病に襲じた敵の暗喩に悩む人が苦痛の神に訴え、信頼を表明し、救われた喜びを歌う」。
 「以上6節前半まで、米をめぐり難に耐えての祈り。2、4節はマテ13に既出」。

「ヨナ三に既出。その注を参照」。
 「敵を指す」。
 「以上9節まで、過去の救いの出来事を想起して讃美する」。
 「眞実のエルはここだけ。代トヨナ三には「眞実の神」が出る」。
 「冒頭の「私」は異来、七人歌では「あなた」(存在するもの)を認む—とは關係を大任にするの意。ヨナ三。ヤハウエを二人称とする本節は、後人の追記が」。

靖獻遺言卷之八

絶命辭

明建文帝侍講直文淵閣方孝孺

一 孝孺字希直。洪武中以薦召見。太祖喜其舉動端整。謂太... 予標曰。此壯士也。當老其才以輔汝矣。詔遣還鄉。孝孺... 歸杜門著述。若將終身焉。久之復徵至。為漢中府教授。... 太祖崩。太子先卒。是為懿文帝。太孫允炆即位。改元建文。... 因稱建文帝。召孝孺為翰林博士。尋陞侍講。直文淵閣。... 從太祖先命也。孝孺德望素隆。建文帝禮遇甚重。一時倚重。... 初懿文太子之弟。太祖第四子棣封燕王。素審衷心。及太祖... 崩太孫即位。以下朝廷近臣齊泰。黃子澄等更革舊制。削弱諸... 王因以誅齊。黃靖國難為號。反北平。引兵南下。諸... 路官軍相踵敗績。燕兵遂渡江逼京城。孝孺乃作絶命詞。自... 〇北平 今の北京。 〇京城 今の南京。

靖獻遺言卷之八

絶命の辭

明の建文帝の侍講直文淵閣方孝孺

一 孝孺、字は希直、洪武中に薦を以て召見せらる。太祖其の舉動の端整なるを喜び、太子標に謂つて曰く、『此れ壯士なり。當に其の才を老せしめて以て汝を輔けしむべし』と。諭して郷に還らしむ。孝孺歸つて門を杜ぢて著述し、將に身を終へむとするが若し。之れを久しくして復た徵されて至り、漢中府の教授と爲る。太祖崩す。太子先ち卒す、是れを懿文帝と爲す。太孫——允炆、位に即き、建文と改元す。因つて建文帝と稱す。孝孺を召して翰林博士と爲し、尋いで侍講に陞し、直文淵閣とす。太祖の先命に従へるなり。孝孺は德望素より隆し、建文帝の禮遇甚だ重く、一時倚重す。初め懿文太子の弟、太祖の第四子棣、燕王に封ぜられ、素と異心を蓄ふ。太祖崩じ、太孫、位に即くに及びて、朝廷の近臣齊泰・黃子澄等、舊制を更革し、諸王を削弱せるを以て、因つて齊・黃を誅し國難を靖んずるを以て號と爲し、北平に反し、兵を引きて南下す。諸路の官軍相踵いで敗績し、燕の兵遂に江を渡りて京城に

分必死。諸臣勸帝出幸。孝孺請堅守誓死社稷。及燕兵進駐金川門。谷王穗、李景隆等開門迎降。棣遂入城。帝乃縱火焚宮變服遁去。京師傳言帝崩。時建文四年也。棣遂自立即位。廢建文帝太子奎。為庶人。幽之中都矣。二 棣之初發也。姚廣孝囑曰。南有方孝孺者。素有學行。武成之日。必不降附。請勿殺之。殺之則天下好學之士絶矣。棣首肯之。至是孝孺為賊兵執以獻。棣欲召用。不肯屈。一日遣諭再三終不從。既而會議頒即位詔。棣問左右。誰可代草者。皆舉孝孺。乃命出自自獄。孝孺斬髮而見。悲慟不止。聲徹殿陛。棣降榻慰諭曰。先生無勞苦。吾欲法周公輔成王耳。孝孺曰既稱周公輔成王。今成王何在。棣曰。渠自焚死。孝孺曰成王即不存。何不立成王之子。棣曰國顧長君。孝孺曰何不立成王之弟。棣曰此朕家事。先生何自苦。

〇即位 是れ孝孺祖文宣帝と稱す。 〇中部 今の山東省青州府牧縣。 〇姚廣孝 年十四にして侍と爲り、道術と名づく、燕王の謀主たり。 〇武成之日 武王の討殷の日にて、戦に勝ちたる時をいふ。昔の武成に本づく。 〇斬髮 喪服の最も重きもの、下裳を脱ぎしまでに剃るはさるを斬といふ。襄は突に對して上表す。 〇周公輔成王 周公は武王の弟にして、成王の叔父なり。今燕王は建文の叔父なればかくいひしなり。 〇渠 渠文帝を指す。 〇成王之子 建文の子をいふ。即ち太子奎なり。

逼る。孝孺乃ち絶命の詞を作り、自から必死を分とす。諸臣、帝に出でて幸したまはむことを勸む。孝孺堅く守り誓つて社稷に死せむと請ふ。燕の兵進みて金川門に駐まるに及びて、谷王穗・李景隆等、門を開きて迎へ降る。棣遂に城に入る。帝乃ち火を縱ちて宮を焚き、服を變へて遁れ去る。京師『帝崩したまへり』と傳言す。時に建文四年なり。棣遂に自立して位に即き、建文帝の太子奎を廢して庶人と爲し、之れを中都に幽す。

二 棣の初めて發するや、姚廣孝、囑して曰く、『南に方孝孺といふもの有り。素と學行有り。武成の日必ず降附せざらむ。請ふ之れを殺すこと勿れ。之れを殺さば、則ち天下に學を好むの種子絶えむ』と。棣之れを首肯す。是に至つて孝孺、賊兵の爲に執らへられ以て獻せらる。棣召して用ひむと欲すれども、屈することを肯んぜず。一日に遣諭再三せしが終に從はず。既にして即位の詔を頒たむと議するに會ふ。棣左右に問ふ、『誰れか代りて草す可き者ぞ』と。皆孝孺を舉ぐ。乃ち命じて獄より出さしむ。孝孺、斬髮して見え、悲慟して止まず、聲、殿陛に徹す。棣、榻を降り、慰諭して曰く、『先生、勞苦すること無し。吾れ周公が成王を輔けしに法とらむと欲するのみ』と。孝孺曰く、『既に周公が成王を輔くと稱す。今成王何にか在る』と。棣曰く、『渠れ自から焚死せり』と。孝孺曰く、『成王即ち存せざれば、何ぞ成王の子を立てざる』と。棣曰く、『國は長君に頼る』と。孝孺曰く、『何ぞ成王の弟を立て

又授以紙筆。詔天下。非先生草不可。爲我作詔命。孝孺大書數字。擲筆於地。又大哭。且罵且哭曰。死則死耳。詔不可草。棣大怒。大辟謂曰。汝焉能遠死。朕當滅汝十族。令復繫獄以俟。乃據其宗支。盡抄沒之。宗族坐死者八百四十七人。焚夷其先人墓。每抄一人。輒示孝孺。孝孺執不從。乃及母族妻族。九族既殲。亦皆不從。乃及朋友門生。亦皆坐誅。然後餘孝孺於聚賢門外。以刀抉其口兩旁。至其耳。刑之凡七日。罵聲不絕。至死乃已。年四十六。凡九族外親之外親。盡數抄提。外親自抄提後死者。復數百人。三 初詔收孝孺妻鄭氏。與諸子。皆先自縊死。二女未笄。被逮過淮。相與投橋水一死。孝友孝孺弟也。及親屬皆就一。孝孺自之。不覺淚下。孝友乃口吟一絕。阿兄何必淚漣漣。取義成仁在此間。華表柱頭千載後。旅魂依舊到家山。

〇數字 「無職算位」と大書せるを命じて其の舌を割く。乃ち血を食みて御座を犯し、語願めて不遜なり」と。 〇宗支 宗は本家、支は枝流、總は引合に出すこと。 〇抄提 沒收と同じ。 〇聚賢門外 唐侯の兩子端・籍嘗て學を孝孺に授く。兩子遺骸を拾ひ聚賢山に葬る。子の南京に遊びし時、辛うじて其墓を草葉の中に探訪して一炷の香を焚したりき。 〇九族 上は高祖より下玄孫に至るをいふ。即ち高祖父母、曾祖父母、祖父、父母、己、子、孫、曾孫、玄孫是れなり。 〇親屬 人を稱して遠近なごを看守護衛せしむるなり。 〇未笄 經記の曲體に「十五五に女子をいふ。 〇華表 蔡所の入口に立つ音。丁金威といふ人の遺魂、千載の後、白鶴と化して、故郷の華表に歸れりといふ故事により、我等も他日靈魂は共に故郷に歸らむとの意。

ざる」と。棣曰く、『此れ朕が家事なり、先生何ぞ自から苦しめるや』と。又授くるに紙筆を以てして曰く、『天下に詔せむには、先生草するに非ざれば不可なり。我が爲に詔命を作れ』と。孝孺、數字を大書し、筆を地に擲ち、又大に哭し、且つ罵り、且つ哭して曰く、『死せば則ち死せむのみ。詔は草す可からず』と。棣大に怒り、大辟して謂つて曰く、『汝焉んぞ能く遠かに死せむや。朕當に汝の十族を滅すべし』と。復た獄に繋ぎて以て俟たしむ。乃ち其の宗支を擄して、盡く之れを抄没す。宗族坐死者八百四十七人なり。其の先人の墓を焚夷し、人を抄提する毎に、輒ち孝孺に示す。孝孺執りて從はず。乃ち母族妻族に及び、九族既に殲せらるれども亦皆從はず。乃ち朋友門生に及ぶまで、亦皆坐して誅せらる。然る後、孝孺を聚賢門の外に、以て刀を以て其の口の兩旁を抉りて耳に至る。之れを刑すること凡そ七日、罵聲絶えず、死するに至つて乃ち已む。年四十六なり。凡そ九族、外親の外親、數を盡くして抄提調衛す。外親、抄提せられてより後死する者復た數百人なり。三 初め詔して孝孺の妻鄭氏を收めしめしに、諸子と皆先づ自から縊れて死せり。二女未だ笄せず。逮せられて淮を過ぎ、相與に橋水に投じて死す。孝友は孝孺の季弟なり。親屬皆戮に就くに及びて、孝孺之れを目して、覺えず涙下る。孝友乃ち一絶を口吟す、『阿兄何ぞ必ずしも涙漣漣たらむ。義を取り仁を成すは此の間に在り。華表柱頭千載の後、旅魂舊に依つて家

Ach Gott, vom Himmel sieh darein BWV 2

Kantate zum 2. Sonntag nach Trinitatis (Uraufführung: 18. 06. 1724)
Text: Textdichter unbekannt; 1,6: Martin Luther (12. Psalm) 1524; 2,3: Umdichtung eines unbekanntes Bearbeiters
Trombone I,II,III,IV, Oboe I,II, Violino I,II, Viola, Soprano, Alto, Tenore, Basso, Continuo, Organo

《ああ神よ、天よりご覧ください》BWV 2

三位一体節後第2日曜日 (初演: 1724年6月18日)
テキスト: 作詞者不詳。第1・6曲: マルティン・ルターのコーラル (1524) 第1、6節、第2・3曲: 同コーラル第2~5節の書き換え
トロンボーン I, II, III, IV、オーボエ I, II、ヴァイオリン I, II、ヴィオラ、ソプラノ、アルト、テノール、バス、コンティヌオ (BC)、オルガン

1. Choral

Trb I, II, III, IV, Oboe I, II, Vn I, II, Va, BC

Ach Gott, vom Himmel sieh darein
Und laß dich's doch erbarmen!
Wie wenig sind der Heiligen dein,
Verlassen sind wir Armen;
Dein Wort man nicht läßt haben wahr,
Der Glaub ist auch verloschen gar
Bei allen Menschenkindern.

2. Recitativo (Tenore)

BC

Sie lehren eitel falsche List,
Was wider Gott und seine Wahrheit ist;
Und was der eigen Witz erdenket,
- O Jammer! der die Kirche schmerzlich kränket -
Das muß anstatt der Bibel stehn.

Der eine wählet dies, der andre das,
Die törichte Vernunft ist ihr Kompaß;

Sie gleichen denen Totengräbern
Die, ob sie zwar von außen schön,
Nur Stank und Moder in sich fassen
Und lauter Unflat sehen lassen.

1. コーラル

— 祈り: この悲惨な背教の世をお救いください —

ああ神よ、天よりご覧ください
そして、憐れみをお与えください! (cf. 哀歌3:49-50、詩編33:13)
何と少ないことでしょう、聖潔なる人は。
われら貧しきものは打ち捨てられています。(cf. ヨブ20:19)
あなたのみ言葉も、真の言葉として保たれず、
信仰はもはや全く消え去っているのです、
すべての人の子において。(cf. 詩編12:2、ミカ7:2)
[M.ルター作詩編第12編に基づく同名のコーラル第1節]

2. レチタティーヴォ

— 偽教師は白く塗られた墓 —

彼らは虚しき偽りのばかりごとを教える、
神とその真実に背くことばかり。
そして自らの浅慮が考え出したことを。(cf. コロサイ2:8)
— おお悲惨なことよ! それが教会を痛々しく蝕む —
その浅はかな考えを聖書にとって代えようというのだ。
(cf. ローマ1:21~22、25)

ひとりはこのを、またひとり別のを選ぶ、
いずれにせよ愚かな理性こそが彼らの指針。

(cf. 第1コリント3:19~20、コロサイ2:8)

彼らは死人の墓に似て、
外側のみは美しく
その内には悪臭と腐敗が渦巻き
ただおぞましき汚物あるのみ。

(cf. マタイ23:27、ルカ11:44、使徒23:3)

[同コーラル第2節に基づく]

対訳の作成に際しては、次のような方法で聖書箇所との関連をできるかぎり示した。

- 1) その日の聖書日課からの引用は、下線をつけてその箇所を示した。
- 2) 一連の言葉使い、またはひとつの文全体が明らかに直接引用されている時は () 内にその箇所を記した。直接の引用とは言えないが、明らかに内容的な関連を持っていると考えられる箇所については、() 内にcf.という文字をつけて、その箇所を記した。
- 3) 聖書の章・節番号は新共同訳に従った。

3. Aria (Alto)

Vn solo, BC

Tilg, o Gott, die Lehren,
So dein Wort verkehren!
Wehre doch der Ketzerei
Und allen Rottengeistern;

Denn sie sprechen ohne Scheu:
Trotz dem, der uns will meistern!

4. Recitativo (Basso)

Vn I, II, Va, BC

Die Armen sind verstört,
Ihr seufzend Ach, ihr ängstlich Klagen
Bei soviel Kreuz und Not,

Wodurch die Feinde fromme Seelen plagen,
Dringt in das Gnadenohr des Allerhöchsten ein.
Darum spricht Gott: Ich muß ihr Helfer sein!

Ich hab ihr Flehn erhört,

Der Hilfe Morgenrot,
Der reinen Wahrheit heller Sonnenschein
Soll sie mit neuer Kraft,
Die Trost und Leben schafft,
Erquicken und erfreuen.
Ich will mich ihrer Not erbarmen,
Mein heilsam Wort
soll sein die Kraft der Armen.

3. アリア (アルト)

— 祈り: 偽教師を滅ぼしたまえ —

滅ぼしたまえ、おお神よ、この世の教えを、
あなたの言葉を捻じ曲げる教えを!
異端と、
徒党を組む族から防いでください。

(cf. 詩編22:17 Luther=Bösen Rotte)

彼らは臆面もなく言うのです、
「逆らえ、我らを論そうとする者などには!」

(cf. 詩編12:5, 36:1、第2ペテロ2:10)

[同コーラル第3節に基づく]

4. レチタティーヴォ (バス)

— 神は貧しき者の叫びを聴かれる —

貧しき者は怖じ惑う、
彼らの「ああ」というため息、不安に満ちた嘆きは
かくも数多の十字架と苦難にあつて、

(cf. ヨハネ15:18~20、マタイ16:24)

敵どもが信仰厚き者たちを苛むその苦しみの最中に
いと高き方の恵みの耳に届くのだ。(cf. マタイ5:4,10)
ゆえに神は言われる: 「私はおまえたちの助け手となろう。」
(cf. 詩編12:6)

私は、おまえたちの嘆きを聴いた。

(cf. 出エジプト3:7、詩編69:34)

救いの夜明け、
混じりけのない真理の輝かしい陽の光が (cf. イザヤ30:26)
新しい力、
慰めと命をもたらす新しい力をもって
彼らをはげまし、喜ばせるであろう。
私は彼らの苦難を憐れみ、
私の救いの言葉が
貧しき者の力となるであろう。」(cf. 詩編12:6、イザヤ40:29~31)
[同コーラル第4節に基づく]

ページは静かにおめくりください。

なお、カンタータのテキストと聖書箇所との関連性については、次の文献を参考にしつつ、随時判断を加えた。

- Ulrich Meyer: Biblical Quotation and Allusion in the Cantata Libretti of J.S.Bach (1997, London)
Melvin P.Unger: Handbook to Bach's Sacred Cantata Texts (1996, London)
また各曲冒頭には、上述のUngerの著作を参考にしつつ、その内容をひとことで表す小見出しをつけた。

比丘波羅提木叉

大徳の僧伽(衆團)は我が言を聴くべし、今日は十五日布薩なり、若し僧伽の準備成らば僧伽は布薩を行ひ波羅提木叉を説示すべし。何をか僧伽の最初の行事となす一諸導師は身の清浄なることを告ぐべし、我れ波羅提木叉を説示せむ。ここに在る我等一同はそ(波羅提木叉)を一心に聴くべし。犯罪ある人は告白すべし、犯罪なき人にありては沈黙を守るべし、諸導師、沈黙によりて清浄なりと我れ認めむ。各々の質問に対して返答(説明)のある如く、その如くにして、かかる集會に於ては三度まで尋ねらるべし、三度まで尋ねられて、記憶しながら事実ある罪を告白せざるならば故意の妄語に陥るなり、諸導師、故意の妄語は障道法なりと仏は説かれたり。されば犯罪の記憶存し、その身の清浄らんことを欲する比丘により、事実ある罪は告白せらるべきなり、告白してその者に安樂を得るなり。

諸導師、序言は説示せられたり、茲に我れ諸導師に問はん、諸導師は清浄なりや如何。二度我れ問はん、諸導師は清浄なりや如何。三度我れ問はん、諸導師は清浄なりや如何。今諸導師は清浄なり、それ故の沈黙と、かく我れこれを判断す、と。

(序言説示)

茲にこれ等の四パーラージカ(波羅夷)法は説示せらる。

- (1-1) 何れの比丘と雖も比丘たるべき戒律的生活に入りて、修行を見捨てず、力弱きことを公言せずして不浄法を行はんか、縦令畜生に対すと雖もパーラージカにて、共住すべからざるものなり。
- (1-2) 何れの比丘と雖も村落或は空地より盜心を以て与へられざるものを取るならば一それはかくの如き盜み方にて、即ち諸王の盜人を捕へて汝は強盜なり、汝は愚者なり、汝は痴人なり、汝は窃盜なりとて或は殺し或は縛り或は追放に処することあるべし、比丘かかる有様にて与へられざるものを取ることを、これも亦パーラージカにて共住すべからざるものなり。
- (1-3) 何れの比丘と雖も知りつつ人体の生命を奪ひ、或はそれに対して殺者(武器を持つ者)を求め、或は死の美を讚歎し、或は死を勧めて「咄、この男、この悪生活は汝にとり何の用ぞ、汝にとりては死は生に勝るべし」と云ひ、かく思ひ、かく決心して種々の方法を以て死の美を讚歎し、死を勧むることあらば、これも亦パーラージカにて共住すべからざるものなり。
- (1-4) 何れの比丘と雖も明らかに認知せずして上人法に就きて満足なる聖知見をその身に体得せるものの如く「我はかく知り、我はかく見る」とて世間に布告すならば、而して其後に於て他より追及せられて或は追及せられざるも罪の清浄らんことを欲して「友よ、我れは知らずして知る、見ずして見ると称し、虚妄の言を吐けり」と語るならば、これも亦パーラージカにて共住すべからざるものなり、但し増上慢を除く。

諸導師、四パーラージカ法は説示せられたり、比丘はこれ等の何れに陥りても他の比丘等と共住をなす能わざること出家以前に於ける如くその如く爾後もパーラージカとなりては共住すべからざるものなり。

於是我れ諸導師に問はむ、清浄なりや否や。二度問はむ、清浄なりや否や。三度問はむ、清浄なりや否や。今、諸導師は清浄なり、それ故の沈黙と、かく我れこれを判断す。

パーラージカ(波羅夷)法竟る。

諸導師これ等の十三サンガハーディセーサ(僧伽毘施沙)法は説示せらるるなり。

- (2-1) 故意に不浄(精)を洩らすこと、夢中を除き、サンガハーディセーサなり。
- (2-2) 何れの比丘と雖も欲を起し劣情よりして或は手を捉へ或は髪を捉へ或は何れの部分にか触れて女人に接触することあらばサンガハーディセーサなり。
- (2-3) 何れの比丘と雖も欲を起し劣情よりして女人に向ひ麁惡の言葉、それは若き男が若き女に向って話しかくるが如き猥褻の言葉を以て話しかくるならばサンガハーディセーサなり。
- (2-4) 何れの比丘と雖も欲を起し劣情よりして女人の近くにて自己の為の淫欲給仕の利益を讚歎して曰く「姉妹よ、これは給仕中第一なり、婦人にして余の如き戒徳あり善法を具し清浄の行者に対し、この法によりて仕へかし」とて不浄法に結びつくるならばサンガハーディセーサなり。
- (2-5) 何れの比丘と雖も媒介を行ふならば、(即ち)或は女に男の意中を、或は男に女の意中を(告げて)、或は夫婦たらしめ、或は情夫婦たらしめ、縦令一刹那の關係者たらしむるもサンガハーディセーサなり。

(18) Yo pana bhikkhu jātarūparajataṃ uggaṇḥeyya vā uggaṇḥāpeyya vā upanikkhittaṃ vā sādiyeyya nissaggiyaṃ pācittiyaṃ.

(一八) 何れの比丘と雖も金銀(貨幣)を自ら手に取り或は人をして取らしめ、或は秘藏するならばニッサッギヤ・パーチャッティヤなり。

若比丘自捉金銀及錢、若使人捉若發心受、尼薩耆波逸提。

(10) Yo pana bhikkhu paṭhaviṃ khaṇeyya vā khaṇāpeyya vā pācittiyaṃ.

(一〇) 何れの比丘と雖も土地を掘り又は他をして掘らしむるならばパーチャッティヤなり。

(註) 土地を掘れば虫類を害することあればなり。

若比丘、自掘地若使人掘言掘者、波逸提。

(20) Yo pana bhikkhu jānaṃ sappāṇakaṃ udakaṃ tīṇaṃ vā mattikaṃ vā siñceyya vā siñcāpeyya vā pācittiyaṃ.

(二〇) 何れの比丘と雖も故意に蟲の交れる水を草又は土の上に撒布し或は撒布せしむるならばパーチャッティヤなり。

若比丘、知水有蟲若取澆泥、若飲食諸用、波逸提。

(38) Na ujjhānasaññi paresaṃ pattāṃ olokessāmīti sikkhā karaṇiyā.

(三八) 「我れ不満な思をなして他人の鉢を眺めざるべし」との紀律(學)は守らるべし。

不嫌心視比丘鉢、應當學。

(39) Nātimahantaṃ kabaḷaṃ karissāmīti sikkhā karaṇiyā.

(三九) 「我れ餘りに大きな飯球(一口に入る)を作らざるべし」との紀律(學)は守らるべし。

不大張口食、應當學。

宗教絵画

1	ブレイク (1757-1827)	創造者
2	ミケランジェロ (1475-1564)	アダムの創造 システィナ礼拝堂
3	デューラー (1471-1528)	アダムとエバ
4	マサッチオ (1401-c1428)	楽園追放 サン・マリヤ・デル・カミネ 聖堂
5	ブリュゲル (c1525-1569)	バベルの塔
6	ドラクロア (1798-1863)	ヤコブと天使の闘い サン・ジュルピエ聖堂
7	シャガール (1887-1985)	十戒の板を砕くモーセ
8	プッサン (1594-1665)	黄金の子牛の礼拝
9	ミケランジェロ (1475-1564)	モーセ サン・ピエトロ・イン・ビンチ 聖堂
10	レンブラント (1606-1669)	目をつぶされるサムソン
11	フーケ (c1420-1481)	神殿を破壊するサムソン
12	ミケランジェロ (1475-1564)	ダビデ フィレンツェ・アカデミア美術館
13	ドゥッチョ (c1255-1319)	キリストの生誕および預言者イザヤとエゼキエル
14	ルーベンス (1577-1640)	セナケリブの敗北
15	フーケ (c1420-1481)	ネブカドネザル軍のエルサレム侵攻
16	ラファエロ (1483-1520)	エゼキエルの幻想
17	レオナルド (1452-1519)	受胎告知
18	ラファエロ (1483-1520)	受胎告知
19	ファブリアーノ (c1370-1427)	東方三博士の礼拝
20	ラファエロ (1483-1520)	美しい女庭師 (マリア・イエス・ヨハネ)
21	ラトゥール (1593-1652)	大工の聖ヨセフ
22	ピロ・デ・ランチェスカ (c1420-1492)	キリストの洗礼
23	モロー (1826-1898)	幻影 (サロメ)
24	ゴッホ (1853-1890)	よきサマリア人
25	マサッチオ (1401-c1428)	貢の銭 (ペテロの奇蹟)
26	ジオット (c1267-1337)	ラザロの蘇生
27	ペルジーノ (1445-1523)	聖ペテロに天国の鍵を与えるキリスト サン・ピエトロ礼拝堂
28	ダリ (1904-1989)	最後の晩餐
29	グリューネヴァルト (?-1528)	磔刑 イーゼンハイム祭壇画
30	マンテーニャ (1430-1506)	死せるキリスト
31	エル・グレコ (1541-1614)	キリストの復活
32	ミケランジェロ (1475-1564)	最後の審判 システィナ礼拝堂
33	カリエ・ジャーマ (14世紀)	冥府下り
34	ヒロニムス・ボス (c1450-1516)	快楽の園

再来週 (7 / 16) は試験です

場所: 講堂

時間: 8:55~10:25 持ち込み可 (ノート、教科書を含む)

論述問題 (主) + 知識問題 (従)

●試験に代わるレポート● ☆提出先 西9号館2階レポートボックス、又は郵送 (期限必着)

☆テーマ: 以下のひとつを選択 ☆締切 8月11日 (水) ☆枚数 1600~3000字程度

- 1) 教科書の2つ以上の章と関係がある問題を自ら設定し、それに回答せよ。
- 2) 宗教と関連がある社会現象について、オリジナルな考察を加え、論述せよ。

宗教音楽

- 1 ユダヤ教 「イスラエルの人びとは安息日を守り」 アシュケナージ (東欧ユダヤ教)
金曜日夜に歌われる。旋律はヘブライ語聖書に付けられたアクセント記号による。
- 2 グレゴリオ聖歌 「キリエ」 サン・ピエール・ド・ソーレム修道院 (フランス)
Kyrie eleison x3 Christe eleison x3 Kyrie eleison x3 主よ、憐れみたまえ、キリストよ、憐れみたまえ、主よ、憐れみたまえ
- 3 ルネサンス・ミサ曲 「キリエ」 トマス・ルイス・デ・ヴィクトリア (1548-)
16世紀後半にイタリア、スペインで活動。 Festina Lente 合唱隊
- 4 プロテスタント・讃美歌 「わが主キリストよ、復活の日」 マディ・ワイルトとカニル・バド
18世紀イギリス非国教会派の教会音楽。音楽隊にあわせた讃美歌。
- 5 隠れキリシタン・オラショ 「デウス・パイテロ」 長崎県生月島
日本語、ラテン語、ポルトガル語、ギリシャ語の混じった祈り
- 6 イスラム教 「アザーン」 (召喚) トルコ・イスタンブール
アッラーは偉大なり。アッラーの他に神なし。ムハンマドはその使徒なり。来たりて祈れよ。来たりて救われよ。アッラーは偉大なり。アッラーの他に神なし。
- 7 イスラム教 コーラン朗誦「開扉の章」 トルコ 朗読: Kani Karaja
讃えあれ、アッラー、万世の主、慈悲深く慈愛あまねき御神、審きの日の主宰者。汝をこそ我らはあがめまつる、汝にこそ救いを求めまつる。願わくは我らを導いて正しき道を辿らしめ給え、汝の御怒りを蒙る人々や踏みまよう人々の道ではなく、汝の嘉し給う人々の道を歩ましめ給え。
- 8 ヒンドゥー教 バジヤン「クリシュナを称えて」 (マラーティー語) インド
- 9 ヴードゥー教 「ガガの踊り」 ハイチ
ヴードゥー教は、カトリックやアフリカの宗教などが混淆した土着宗教。
- 10 儒教 「孔子の霊を迎える儀式」 台湾
孔子廟で行なわれる一連の儀式の一部、第一の供物を捧げる儀礼。
- 11 道教 「光明神呪」 香港
中国南方の民謡の影響を受けた音楽です。
- 12 チベット密教 声明「サンワ・デュパ (経典)」 ギュート・ゴンパ僧院
通常よりずっと低い音域を使って、密教の経典を朗読します。

●任意レポート● ☆提出先 西9号館2階レポートボックス、又は郵送 (期限必着)

☆何通でも出せます。 ☆締切 8月11日 (水) ☆枚数 任意

☆テーマ☆ 任意 (自分の好きなテーマを選んで下さい。)

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『その先の日本国へ』(以上、勁草書房)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『選択・責任・連帯の教育改革』(共著・勁草書房)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『こんなに困った北朝鮮』(メタログ)、『正義・戦争・国家論』『自分を活かす思想/社会を生きる思想』『天皇の戦争責任』(以上、共著、径書房)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』(共著、平凡社新書)、『世界がわかる宗教社会学入門』(筑摩書房)、『政治の教室』(PHP新書)、『日本人は宗教と戦争をどう考えるか』(共著・朝日新聞社)、『「心」はあるのか』(ちくま新書)、『人間にとって法とは何か』(PHP新書)、『永遠の吉本隆明』(洋泉社新書y)、『言語・性・権力』(春秋社)ほか <http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ 仏教とはどういうものか

1) ブッダ(釈尊)の教え

- ・基本仏教 三法印：諸行無常、諸法無我、涅槃寂静 八正道
この世界の本质を苦と見さだめ、執着を離れ、平穏な境地に達することを理想とする
- ・出家修行…サンガ(僧伽) 戒律：釈尊が定めたサンガの規律
- ・經典の編纂(結集) 注釈(アビダルマ) 部派仏教(根本分裂→枝末分裂)

2) 大乘仏教：在家信者がブッダの境地をめざす運動 六波羅蜜の修行を行なう

- ・般若経…空の立場 法華経 浄土三部経 華嚴経 密教經典
- ・中国の仏教 国営仏教

天台宗…五時教判説 法華経を最高の經典とする

禪宗…ブッダの行法の正統を継ぐと主張 經典を相対化 戒律を破棄

3) 日本の仏教 本地垂迹説：インドの本地仏が日本に垂迹して神となった

- ・真言宗…山岳信仰と習合
- ・浄土真宗 親鸞：非僧非俗、公然と妻帯、出家修行を否定
- ・日蓮宗…法華経のみに権威を認める
日蓮正宗…日蓮を本仏として信仰、日蓮に釈尊と同等の権威を認める
- ・江戸幕府の政策 宗門人別帳/邪宗門(日蓮宗不受布施派、真言立川流、…)

□2□ 儒教とはどういうものか

1) 孔子の教え

- ・新興の士階級であっても、教育を受ければ、政治に参加できる
長幼の序/礼(政治制度～行為マニュアル)/忠(義)+孝/伝統主義
- ・經典の編纂 過去が正しさの基準に→過去の政治家のつくった制度や先例を重視
- ・法家の思想 刑罰重視、連帯責任(罪は九族に及ぶ)

2) 朱子学

- ・科挙による官僚制度の一元化 読書人階級↔貴族・宦官
- ・天についての形而上学 読書人は、天地の気を体現
- ・正統論：正しい政府が異民族によって征服されるのはなぜなのか Cf 孟子の正統論

3) 日本の儒学

- ・朱子学を批判し相対化 伊藤仁斎、荻生徂徠 孔子の思想に立ち戻る
- ・崎門の学 山崎闇斎→浅見綱斎 君主に対する絶対的服従を主張(忠孝一如)

□3□ 神道とはどういうものか cf 菅野覚明 2001 『神道の逆襲』講談社現代新書

1) 古事記・日本書紀

- ・部族社会の自然神崇拜→神々が混在したまま、政治的な妥協→多神教へ
- ・アマ氏の神が主宰神 神は人間を産んだ(神と人間は血縁)
- ・天皇は神の子孫、ゆえに、天皇は日本を統治する権限がある

2) 吉田神道(元本宗源唯一神道)

- ・天御中主神：神々を生成する根源的な神 →吉田家が神道を主宰
- ・吉田兼俱(1435-1511) 神道学説の根拠を書記に置く 天照大神～豊受大神の幽契

3) 平田神道

- ・本居宣長の学説に異を唱え、死者の霊は穢れていない(この世に常在)と主張
- ・国家に献身した人びとの靈魂は、英霊となって、現存する人々を護っている
→「国事殉難者」を祀る招魂社～靖国神社の創設へ

□4□ キリスト教とはどういうものか

1) イエスの教え

- ・律法をかたちばかり守ることは意味なし 神の愛に応えることが必要
- ・神の国は、地上の国でない 神のものは神ふへ、カエサルのはカエサルへ
- ・譬えによる教え、旧約からの引用、イエスはユダヤ教徒 終末論

2) パウロの教えとキリスト教

- ・パウロの回心 神の国は近づいた～禁欲のすすめ 地上の権威には従え
- ・教会 天国の鍵(ペテロが初任教皇で、天国の鍵を伝承している)
- ・新約聖書の編纂 公会議：教義論争を決着するための信徒代表の全体会合

3) 宗教改革

- ・ルター 聖書中心主義 信仰によって義とせらる 聖書の翻訳
- ・カルヴァン 救済予定説 世俗内禁欲 清教徒 Puritan
- ・反宗教改革 イエズス会ほか

4) ユダヤ教～キリスト教の重要概念

- ・神義論…なぜ正しい者が苦しみ、地上で悪が栄えるのか(なぜ神は沈黙するのか)
- ・メシア(キリスト)…信仰共同体を救うため、神がつかわず人間(国王、預言者)
- ・禁欲…すべての関心や精力をひとつの目的に集中すること

2004-5-(11)

青年海外協力隊
平成16年2次隊
派遣前訓練講義

異文化理解と適応

世界の宗教と日本(人)

2004.9.15

橋爪大三郎
(東京工業大)

14:30~17:00

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『その先の日本国へ』(以上、勁草書房)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『冒険としての社会科学』(毎日新聞社)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『こんなに困った北朝鮮』(メタログ)、『正義・戦争・国家論』『自分を活かす思想/社会を生きる思想』『天皇の戦争責任』(以上、共著、径書房)、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』(共著、平凡社新書)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『世界がわかる宗教社会学入門』(筑摩書房)、『強いサラリーマン、へたばる企業』(共著・廣済堂出版)、『寛容のレシピ』(グラスビー著、解説・NTT出版)、『政治の教室』(PHP新書)、『日本人は宗教と戦争をどう考えるか』(共著・朝日新聞社)、『「心」はあるのか』(ちくま新書)、『人間にとって法とは何か』(PHP新書)、『永遠の吉本隆明』(洋泉社新書y)ほか。 <http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ 宗教とは何だろう

1) 宗教の定義は、むずかしい

- ・橋爪の定義：宗教「日常生活のなかで自明でない前提にもとづいてふるまうこと」
- 2) 宗教の役割……人びとの集まりである社会に、道徳・規範・社会構造を与える
 - ・宗教は、OS (MAC, WINDOWS)のようなもの 優れているから普及すると限らない
- 3) 宗教は生活に密着している
 - ・キリスト教徒10億+ムスリム10億+ヒンドゥー教徒10億+儒教徒10億+…
 - ・日本人の宗教嫌いは、江戸時代、明治時代の「行政指導」のせい

□2□ ユダヤ教

1) 一神教 monotheism は、ただの多神教 polytheism の反対なのか

- ・宗教=神との契約=法律 なぜユダヤ民族は一神教を発明したか?
- ・ヤハウェ：戦争神/創造神 神は主/人間は奴隷 ユダヤ民族にとって救済とは?
- 2) なぜユダヤ教には、ややこしい宗教上の規則があるのか
 - ・食物規制(血は飲まない、鱗のない魚はだめ、……) ⇒異教徒と結婚できる?
 - ・安息日(ユダヤ教は土曜、キリスト教は日曜、イスラム教は金曜)
- 3) 「予言者」「法学者」はどういう活動をするのか
 - ・予言者~神の声を聞き王と人民に警告(知識人の原型) モーゼ、エリヤ、イザヤ…
 - ・パリサイ人~モーゼの律法に忠実な平信徒 シナゴークは教会なのか?
 - ・ラビ~世俗の職業をもつかわらユダヤ法学者として活動

□3□ キリスト教

1) イエス=キリストを信じると、なぜ救われるのか

- ・イサクの犠牲 アブラハムがあわや一人息子を犠牲に ⇒イエスの磔
- ・パウロの学説 イエスはキリスト、神のひとり子 「原罪」

2) 『聖書』はなぜ、旧約+新約なのか

- ・最後の審判(神の裁き)とは 救済とは ハルマゲドンとは?
- ・人間は死んだらどうなるのか 誰が「神の国」に入る?
- ・なぜキリスト教は政教分離か? 教会(法律を守る) 皇帝(信仰を守る)

3) なぜ、いくつも教会があるのか

- ・東方教会(ギリシヤ正教)~ビザンチン総主教/西方教会(ローマカトリック)~ローマ教皇
- ・プロテスタント教会 ルターが免罪符の販売に抗議
 - カルヴァン派(→清教徒)、ルター派、クウェーカー、バプティスト…
- ・英国国教会(アングリカン・チャーチ)
- ・イエズス会(強固な軍隊的組織と献身)~反宗教改革

□4□ イスラム教をどう理解すればいいか

1) ムハンマドは、教祖なのか?

- ・ムハンマド=最大で最後の預言者(神の使徒) 『クルアーン』の啓示を受ける
- ・カリフ(神の使徒の代理人):ムスリム共同体(ウンマ)の統治者

2) イスラム法は、合理的なシステム

- ・法源:クルアーン/スンナ/イジュマー/キヤース 上位の法源が優先
- ・スンナ:ムハンマドの言動についての伝承(ハディース)
- ・イジュマー:法学者の一致した見解 法学者に手紙を出し判断を仰ぐ
- ・キヤース:三段論法による法学者の推論 ほかの法判断を拘束しない ×人の立法

3) イスラム教は「原理主義」なのか

- ・イスラム法の遵守 イスラム法は民族を超越している 礼拝/巡礼/食物規制
- ・救済:地上の幸福/来世の幸福(二重の幸福) 聖戦(ジハード)→天国
- ・西欧化(資本主義、民主主義)はなぜ困難なのか

□5□ 日本人の宗教をどう理解すればいいか

1) 神と仏を、同時に拝むことができるか?

- ・仏教…哲学的合理主義…世界の存在を否定 ×自己 ×霊魂 ×先祖崇拜 ×葬儀
- ・本地垂迹説:仏陀の神々 法華経の本仏思想がヒント
- ・切支丹弾圧 →宗門人別帳 →仏壇・位牌・葬式仏教

2) 日本は儒教社会なのか

- ・儒教…官僚の行動マニュアル 父系社会(年長者絶対)+官僚制(君主絶対)
- ・日本的儒学 忠孝一如(父に仕えるごとく主君に仕えよ) ⇒天皇制、日本株式会社

3) 「英霊」は神道の考えなのか

- ・垂加神道(山崎闇斎が唱えた) 儒教の君主=天皇=神の子孫
- ・平田神道(平田篤胤が唱えた) 死の穢れを否定 →霊は現世に実在

4) 「あなたは何を信じているの」と聞かれたら…?

- ・「無神論です」は、なぜまずいか?

はじめての言語ゲーム
～ 入門編 ～2004. 10. 9
橋爪大三郎

□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『その先の日本国へ』（以上、勁草書房）、『言語派社会学の原理』（洋泉社）、『冒険としての社会科学』（毎日新聞社）、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』（夏目書房）、『民主主義は最高の政治制度である』（現代書館）、『小室直樹の学問と思想』（共著、弓立社）、『はじめての構造主義』（講談社現代新書）、『こんなに困った北朝鮮』（メタログ）、『自分を活かす思想/社会を生きる思想』『天皇の戦争責任』（以上、共著、径書房）、『幸福のつくりかた』（ポット出版）、『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房）、『政治の教室』『人間にとって法とは何か』（以上、PHP新書）、『「心」はあるのか』（ちくま新書）、『言語/性/権力』（春秋社）、『永遠の吉本隆明』（洋泉社新書y）ほか。 <http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ ことばは、どのように意味をもつのか

1) 実物（モノ）、記号（ことば）、意味

知覚 実物（モノ）をそれとしてとらえる
記号 実物を、それとは別のものとして示す リンゴ（実物）←「リンゴ」
さし示すもの：記号（ことば） さし示されるもの：意味

Qなぜ、記号（ことば）とその意味（実物）とは結びつくことができるのか？

・記号（ことば）を用いることで、世界は、意味に満ちた空間となる

2) ヴィトゲンシュタインの人と思想

- ・1889、ウィーンでユダヤ系富豪の家に生まれる。リンツの実科学校をへてイギリスに留学。ケンブリッジでラッセルの学生となる。第一次世界大戦に応召、捕虜となる。1922『論理哲学論考』を出版。小学教師、庭師などを転々。1929、ケンブリッジに戻る。フェローとなり、演習を始める。1939、教授となる。『哲学探究』をほぼ完成。1947、教授を退任。1951、ガンのため死去。死後1953、『哲学探究』出版。
- ・兄たちがつぎつぎ自殺したので、精神的に不安定。芸術的天分。独身。
- ・精神の科学的基礎づけの試み ……現象学、精神分析、論理学

3) 『論理哲学論考』について

- ・(1)世界は、分析的である。 “世界は、かくあることからの総体である”
- ・(2)ことばは、分析的である。 文：名+関係 真/偽 真理関数 無意味
- ・(3)世界とことばは、完璧に対応する。 写像理論 対応：論理形式
- ・(4)以上、(1)～(3)のほか（語りえぬこと）については、沈黙せねばならぬ

・哲学は不要なのか

Q『論理哲学論考』は「語りえぬこと」（世界とことばの関係）を語っていないか？

・世界とことばは、分離できるのか

ことばは、その意味から分離されている。しかしことばも実物なので、世界の一部
『論理哲学論考』は、ことばと世界を分離したので、その対応（精神活動）を神秘化し、世界の<外>に想定することになった。

・ことばは、世界の一部で、われわれは世界の中でことばを使っている。⇒言語ゲーム

□2□ 言語ゲームとは、なにか

1) ことばの意味を、確実に伝える方法はあるのか

- 来月、隕石と衝突し、人類が滅滅する。人類文明の証拠を、地球外に伝えるには？
- 遺跡を発掘したら文字のようなものが見つかった。これが言語だとどう論証する？
- Th1 ある言語の意味や文法を、その言語で記述するのは無理である cf辞書とは何か
- Th2 ある言語の意味や文法を、それと異なる言語で記述するのは無理である
- Th 言語の意味や文法は、端的に「わかる」しかない。それが、言語ゲーム。

2) 言語ゲーム language game の最単純モデル（石工とその助手）～『哲学探究』

- ・2人4語ゲーム 石工/助手 梁石/柱石/台石/石板 そのゲームを観察
- ・N人n語ゲーム～実際の社会 誰もが途中から加わってゲームのルールを習得
- ・ゲームを行なうことができるからといって、そのルールを記述できるとは限らない
- ・言語ゲームには、ルールがある 論理学：言語ゲームのルールの記述

3) ルールを理解する

- ・「机」の意味 机1, 机2, 机3, 机4, ……（以下、同様） ワカッタ！
⇒数列と同じ 2, 4, 6, 8, 10, 12, ……（以下、同様） ワカッタ！

・どのようなルールも、有限個の実例をあげて、理解する/させる以外にない。

・ルールが存在する～人びとの「ふるまいが一致」している

Qクリプキの懐疑：加算（プラス）に対してクワ算（クワス）を考えることができる

←どんな規則にも奇則を考えられるが、人びとのふるまいが一致していれば問題ない

□3□ 言語ゲームから、なにがみえてくるのか

1) 人間はどのように自由なのか

- ・規則に従う rule following 人間は自ら規則に従うので、強制によるのではない
- ・規則に従うことが人間の自由である ルール～意味～価値
- ・社会は規則（ルール）に満ちている ルールの根拠はない ルールに従うのが自由

2) ポストモダンを超えて

- ・近代主義：近代社会の価値や制度は、それ以外のものより優れ、普遍的である
- ・価値相対主義：どんな価値や制度も構成されたもので、普遍的でも絶対的でもない
- ・構造主義、構築主義、ポストモダン、… 価値相対主義自身が近代主義の一変形
- ・人間はかならずある言語ゲームに属し、そのルールに従う
- Th（「ゴドーを待ちながら」の定理） ある言語ゲームの中では、前提が実在し始める人間はどんな言語ゲームも相対化し、その外に出ることができる。けれども、それは別の言語ゲームを始めることでしか可能でない。 例）伝統社会→近代社会
- ・自分たちが生きる社会の価値を尊重するのは正しい。（批判し相対化するのも正しい）

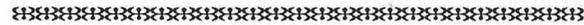
3) 言語ゲームとしての社会

- ・法：責務を課するルールをめぐる、一次ルールと二次ルール（H. L. A. ハート）
- ・仏教：覚りをめぐる言語ゲーム cf 死をめぐる言語ゲーム
- ・イスラム教：ルールブックに従う言語ゲーム
- ・本居宣長：日本語から漢語（漢意）を捨象する言語ゲーム などなど

⇒発展編もご期待下さい 10月13日、20日、27日 6:30-8:30 @東工大岡山西9号館

【参考書】

- ウィトゲンシュタイン『論理哲学論考』（野矢茂樹訳）岩波文庫 700円
- ウィトゲンシュタイン『哲学探究』（ウィトゲンシュタイン全集8）大修館 4500円
- ノーマン・マルコム『回想のウィトゲンシュタイン』法政大学出版局 1500円
- S・クリプキ『ウィトゲンシュタインのパラドックス』産業図書 2000円
- 野矢茂樹『ウィトゲンシュタイン『論理哲学論考』を読む』哲学書房 2400円
- 鬼界彰夫『ウィトゲンシュタインはこう考えた』講談社現代新書 920円



□0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればいいのか』『その先の日本国へ』（以上、勁草書房）、『言語派社会学の原理』（洋泉社）、『冒険としての社会科学』（毎日新聞社）、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』（夏目書房）、『民主主義は最高の政治制度である』（現代書館）、『小室直樹の学問と思想』（共著、弓立社）、『はじめての構造主義』（講談社現代新書）、『こんなに困った北朝鮮』（メタログ）、『自分を活かす思想/社会を生きる思想』『天皇の戦争責任』（以上、共著、径書房）、『幸福のつくりかた』（ポット出版）、『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房）、『政治の教室』『人間にとって法とは何か』（以上、PHP新書）、『「心」はあるのか』（ちくま新書）、『言語/性/権力』（春秋社）、『永遠の吉本隆明』（洋泉社新書y）ほか。 <http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

□1□ 古典はどのように成立するのか

1) 文字とテキスト

- ・文字は変化しない～精神活動を凍結保存する 文字資料↔口承伝承
- ・書物……文字を用いて思想表現を記録したもの 書物は運搬・集積できる
- ・翻訳……他の文化、他の民族の書物を、自分たちが読めるかたちに置き換える

2) 集蔵庫

- ・特定の目的で、多くの書物や記録を集めたもの
- ・そのコストを誰が負担するか 収集の費用 保管の費用 書写(再生)の費用
- ・図書館……公共性(機関が設置)、公開性(誰でも読める)、無差別(どんな本も可)

3) 古典

- ・ある時代に、閲読可能な書物の全体 ⇒ 選択 ⇒ 閲読すべき少数の書物
- ・幾時代かを経て、多くの人びとに選択され続けた書物 ⇒ 新たな書物の前提となる
- ・古典……そのようにして多くの書物に言及され、共通知識となった書物
古典が成立する前提 多くの書物×自由な選択×時代の推移

4) 権力とテキスト

- ・権力はしばしば特定の書物(思想表現)を廃棄する 禁書、焚書
- ・このような権力は、集蔵庫を容認するが、図書館を容認しない

□2□ 大学と図書館

1) イスラム社会と大学

- ・イスラム法……法源『クルアーン』やスンナ(伝承)の「解釈」のシステム
- ・解釈を体系化するため、テキストの集積と批判が必要 ⇒ 大学
- ・『クルアーン』を解釈するため、『聖書』やギリシャ語の古典研究が発達する

2) 西欧社会と大学

- ・神学部 イスラム神学に対抗してキリスト教神学を研究する
- ・法学部 商法～国際法～ローマ法を研究する
そのほかに、医学、哲学
- ・人文主義 humanisme……キリスト教以前のギリシャ語の書物を読んで研究する

3) 大学と図書館

- ・総合大学：神学+法学+医学+哲学(そのほかの学問) ⇒ 書物の集積が必要
- ・図書館 あらゆる書籍を収集して閲読に供する機関 登録/配架/検索/閲読
- ・図書館は、知的共同体(大学、地域社会)の中心になる
図書館があれば、知的生産は可能
亡命者も、図書館で著述ができた カール・マルクス、レヴィ=ストロース

□3□ 日本人がいま、古典を読む意義はなにか

1) 仏教のテキスト

- ・三蔵：経/律/論 論(仏教修行者の個人著作)も、聖典にかぞえられる
- ・大乘経典は後代の述作(非仏説)で内容が互いに不整合なうえ、序列が不明
→ 依拠する経典の違いによって、さまざまな宗派が発生
- ・廃仏運動 明治維新のとき、政府と仏教の関係が切断される 仏教↔神道

2) 儒教のテキスト

- ・経～論～注～疏
- ・過去のテキストは権威ある聖典で、後世のテキストはそれを越えられない
- ・試験(科擧)の出題により解釈を統制
- ・古学・国学 国情の違いによる、朱子学の脱構築

3) 古典としてのテキスト

- ・古典……あるアイデアを最初に明らかにした書物
原典にあたることで、そのアイデアがうまれた必然と文脈を理解できる
- ・日本では、すべての知識人が読みつぐ正典(『聖書』や『クルアーン』や十三経)がなかった
- ・学校教育では、正典を通読し暗誦し解釈することを、重視してこなかった
- ・古典を読む力が、創造的な思考力と問題解決能力を培う

間共同体研究会
@明治学院大学
白金校舎会議室

ホップズ『リヴァイアサン』 2004. 10. 17
・第三部 キリスト教のコモンウェルスについて 橋爪大三郎
・第四部 暗黒の王国
・総括と結論

Hobbes, Thomas 1561 Leviathan, or the matter, forme & power of a common-wealth ecclesiasticall and civill, London. →1968 Penguin Books.
=1982/1985 水田洋訳『リヴァイアサン(三)』『リヴァイアサン(四)』岩波文庫
=1974 水田洋・田中浩訳『リヴァイアサン』(世界の大思想9)河出書房新社

○……橋爪によるまとめ (xx/yyy) ……岩波xx頁/河出 yyy頁

□ 第三部 キリスト教のコモンウェルスについて □

第32章 キリスト教の政治学の諸原理について
○聖書と理性が、政治学の主要原理になる。

神の言葉 → 預言者 (奇蹟・教義) ⇒ 聖書 → 理性による推論 ⇒ 政治学の原理

第33章 聖書の諸篇の数、ふるさ、意図、権威、および解釈者たちについて
○聖書は、神の言葉であり、神の法である。

《各国民において、主権的権威によって、正典的なものとして確立されている諸篇だけが正典であり、すなわち法》である (35/248) ○政府が正典と認めたものが聖書。

《モーシェの五篇とよばれるからといって、…それらがモーシェによってかかれたという十分な論拠ではない。》(37/249)

《旧約の全聖書が…公表されたのは、ユダヤ人がバビロンにおける…捕囚からかえったのち、そして、プトレマイオス・フィラデルフスの時代よりまえであった》(44/253) 《それらが、自然理性を使用しうるすべての人びとがよむことのできる、神の法であり、権威をそなえたものであることは、うたがいない。》(49/256) ~トマス・アキナスの説と一致
⇒○政治的主権者は、神のもとで絶対なのか、それとも、普遍的教会に従属するのか？

第34章 聖書の諸篇における、霊、天使、および靈感の意義について
○天使や霊は実在しない。

聖書にいう「霊」とは、《風あるいは息》《理解力》《愛着》《予言の才能》《生命》《権威への従属》《空気のような物体》のこと。(59-64/259-263)

《天使たちの創造については、聖書のなかになにもべられていない。》(65/263) 《天使は、神の特別で異常な作用によって発生させられた、幻影による超自然的な現出にほかならない》(72/266)

第35章 聖書における、神の王国、神聖な、神にささげられた、および聖礼の意味について

○神の王国は、現実の王国である。
《神の王国は、…神がなんらかの主体(臣下)たちのうえに、かれら自身の同意によって獲得した、神の君主政治すなわち主権のこと》(78/268)
《神の王国》は《聖書のたいていの場所で、イスラエルの人民の特定のやり方による投票

で設立された、王国と名づけられるのが正当なものを、意味する》(78/268)
《神の王国は、現実的な王国であって、比喩的な王国ではない。》(85/272)

アダムを統治 → アブラハムと契約を結び統治 → モーシェによる契約の更新(《神が王であって祭司長が…副王あるいは代理人たるべき王国》)(83/271) → サウルを王に選ぶ、神の王国を投げ捨てた → キリストが神の王国を復興する

第36章 神のことばについて、および予言者たちについて

○予言者は神のことばを伝える。だが、主権者がいれば、予言者よりも上である。
《いつわりの予言者のほうがほんとうの予言者よりもずっと数が多い》(114/287f) 《主権者が根拠があると思うに応じて彼ら(予言をする者)を支持するか禁止するかを、主権者にゆだねるべきである。》(117/289)

予言者の真偽を人びとが判断する規準：①モーシェの教義と一致、②奇蹟

第37章 諸奇蹟とそれらの効用について

○奇蹟については、教会の首長に聞け
《神の人民の主権的統治者、つまり教会の首長が、…われわれが自称奇蹟あるいは自称予言者を信用するまえに…助言を求めべき相手なのである。》(132/295)
《自己の私的な理性または良心を判定者とすべきではなくて、公共の理性、つまり神の至高の代理人の理性を、判定者とするべき》(133/296)

第38章 聖書における、永遠の生命、地獄、救済、来世、および贖罪の意味について

○地獄は永遠の責め苦である(第二の死、ではない)。
《主権者以外の誰かが、生命より大きな報酬を与え、死より大きな処罰を課す権力をもつところでは、コモンウェルスが存在することは不可能である。》(135/297)
《イエス・キリストは…すべての信者に対して、アダムの罪によって失われた永遠の生命を回復した》→《すべての人は地上において生活させられるであろう。》(136f/297f)
→《それは、モーシェのもとに設立された神の王国の、復活》(138/298) 《天使たちのあいだにおいて結婚や生殖がないのとおなじく、そこには生殖がないであろうし、…結婚がない》(139/299)

《神の国は、政治的コモンウェルス Civil Commonwealth であって、そこでは神自身が…主権者なのであり、…彼の代表人または代理人によって支配する》(143/301)

《復活ののちの神の王国が地上にあるならば、敵と彼の王国もまた、地上にあるに違いない。…サタンによって意味されるのは、教会の地上におけるあらゆる敵なのである。》(150/304) cf 第35章 ○地獄や悪魔は、実体として存在するわけではない。
《聖書のなかには、三つの世界があげられている。「ふるい世界」「現在の世界」「来るべき世界」である。》(159/309)

第一の世界(古い世界) ……アダムからノアの洪水まで
現在の世界(この世界) cf 「王国はこの世界のものではない」 ヲネ18. 36(159/309)
来るべき世界 ……イエス・キリストが天から再臨して支配する地上の世界

第39章 聖書における教会という語の意味について
○政治的主権者の許可のない教会は、不法である。

《私は教会をつぎのように定義する。キリスト教の信仰を告白する人びとの集まりで、ひとりの主権者の人格において結合しており、その命令によって集会をもつべきで、その権威なしに集会をもつことができないもの。》(166/312)

《地上には、すべてのキリスト教徒が服従しなければならぬような、普遍的教会は存在しない。》(166/312)

《教会は、キリスト教徒たる人びとからなる政治的コモンウェルスと同一物であって、その主体が人間であるために政治国家 Civil State とよばれ、その主体がキリスト教徒であるために教会とよばれる。》(167/312)

第40章 アブラハム、モーシェ、祭司長たち、およびユダヤ人の王たちにおける、神の王国の諸権利について

○ユダヤ人の共同体の歴史。誰が主権者であったか。

《神が直接に語らなかつた人びとは、神の実体的な諸命令を、かれらの主権者からうけとるべき》である(170/314)

《神の代行者がモーシェ自身の時代にはモーシェだったのであり、その職務の継承は、アロンと、かれののちにはその世つぎたちに、さだめられて、神にとって永久に祭司の王国たるべきものとされた。この設立 constitution により、ひとつの王国が神の手に入った。…彼(モーシェ)の権威は、他のすべての王侯の権威のように、人民の同意 consent と、かれに服従するというかれらの約束 promise とにもとづかなければならない。》(172 f/314f)

《サウルのときまで祭司長が、最高権威をもっていた…。…政治的および教会的権力は、ともに、一にして二ならぬ人格、すなわち祭司長において、結合されていた》(178/318)

祭司長=主権者 →サウル王の即位：祭司長は王権のもとにおかれる →捕囚

第41章 われわれの祝福された救世主の職務について

○キリストの三つの職務。キリストが王であるのは、審判のその日の後である。

三つの職務：贖罪者(救済者)／牧者(教師、予言者)／王(永遠の王)

《われわれの救世主は、…かれが地上で肉体化していた期間には、…人びとの王ではなかつたことは明らかである。…キリストの王国は、普遍的復活までは、はじまらないはずである。》(190f/323f)

第42章 教会権力について

○教会に統治権はなく、人びとの服従を要求できない。

《教会権力は、使徒たちにあった…。…これらの人びとののちには、その権力はふたたび…他の人びとに、伝達された。》(202/329)

ベラルミーノ枢機卿：ローマ法王の教会権力は、主権的であり強制的である。

《キリストの王国はこの世のものでない…。したがって彼らの代行者たちも(かれらが王でない限り)、彼の名において服従を要求することはできない。》(207/332) 《キリストは、この世における彼の代行者たちには、彼らが政治的権威をも付与されたのではない限り、他の人びとを支配するいかなる権威をもゆだねなかつた。》(211/334)

《地上的主権者の権威は、審判の日までは倒されない》(219/338)

《破門は、…ユダヤ人の慣習からひきだされた語で…。破門の効用と効果は…破門されなかつた人びとは、破門された人びとと交際するのを避けるべきだ、ということ以上ではなかつた。》(223f/341) 《すべての場所はとうぜん、コモンウェルスの領土内にあるのだから、破門されたものも、かつて洗礼されたことのないものも、同様に、市民的為政者 Civil Magistrates からの委任によって、それらの場所(合議の場)に入ってよかつたのである。》(225/341) 《意見のちがいのために、破門することについては、聖書のなかになんの権威もみあたらず、使徒のなかになんの実例もみあたらない。》(227/342) 《ひとつの教会が他の教会によって破門されるということはありません》(229/343) 《主権者たる王侯または合議体が破門されるとすると、その判決文は何の効果もない。》(229/344)

《(旧約聖書の)諸篇は、主権者の政治権力によってでなければ、けつして法とはされなかつたことは、明白である。》(242/351)

《新約は、キリスト教徒である主権者たちのもとで、はじめて規範的になった。》(242/351)

《内面の信仰は、それ自身の本性において、みえないものであり、したがって、あらゆる人間的な裁判権から除外されている》(244/352)

《コモンウェルスがキリスト教の信仰を奉じたときまでは、どの教会のなかにも、強制する権威はありえなかつた。》(255/357)

《どんな諸教義が平和にふさわしく、臣下に教えられるにふさわしいかを、審判する権利は、すべてのコモンウェルスにおいて、主権者の政治権力に…不可分に結びついている》(268/364f)

《キリスト教徒たる王たちはいぜんとして、かれらの人民の最高牧者なのであり、教会に教えるため…かれらの好むままに牧者たちを叙任する権力をもつ》(269/365)

《最高の牧者をのぞくすべての牧者は、政治的主権者の権利において、すなわち彼の権威によって、すなわち政治的権利によって、…責務を執行する。だが、王および他のすべての主権者は、最高の牧者という彼の責務を、神からの直接の権威によって…執行する。》(272/367)

《かれら(政治的主権者)は、宗教のことがらに関する彼らの臣下の統治を、法王にゆだねてもいいのだが、その場合には、法王は、その点ではかれらに従属し、他人の領土でその付託を、政治的権利によって、すなわち政治的主権者の権利において、実行するのであり、神的権利によって、すなわち神の権利においてではないのである。それだから、主権者が、かれの臣下たちの利益のために必要だとおもうならば、法王はその職務を解除される》(280/371)

・以下、枢機卿ベラルミーノの最高の司教についての諸篇の考察

《ある国王が政治権力もち、法王が霊的権力をもつとして、だからその王は、…法王に従うように拘束される、ということはお出でこない。》(319/391f)

《法王はキリストの唯一の代理であつたにしても、かれはかれの統治を、われわれの救世主の再来まで、行使することができない》(320/392)

《霊的コモンウェルスは、この世にひとつも存在しない。それはキリストの王国と同じも

のだから》(323/394)

第43条 人が天の王国に受容されるために必要なものごとについて

○神の法とコモンウェルスの法は矛盾しない。
《キリスト教の諸コモンウェルスの…内乱の…口実は、…神と人間の命令が対立する場合に、双方に同時に服従することが困難だということだった。…ひとがふたつの相反する命令を受け、そのひとつが神の命令だとわかっていれば、それに服従すべきで、他方が合法的な主権者の命令であっても、…それに服従すべきでないのは十分に明白である。》(337/398)

○煉獄があるという証拠はない。(353/406f)

《神の法とコモンウェルスの法とのあいだには、矛盾はありえない》(360/410)

□ 第四部 暗黒の王国 □

第44章 聖書のまちがった解釈からくる霊的暗黒について

○人間の魂や靈魂といったものは存在しない。

霊的暗黒の四つの原因……1) 聖書を知らない、2) 異教徒の魔物学、3) アリストテレスのまちがった哲学、4) 虚偽の伝説・虚構の歴史
(19/413)

《聖書の最大かつ主要な悪用は、…神の王国が、現在の教会のことであるとか、…ということを実証するために、聖書をねじまげることである。》(20/413)

⇒《キリスト教徒たる王は、その冠を司教によってうけることが必要だ…、…法王に対する絶対的服従の誓をたてるのだ、という》(22/414) 《レヴィ人に支払われた十分の一税…が、…教会人によって…要求され、キリスト教徒からとられてきた》(23/415)

⇒《現在の教会が神の王国であるという、この同じ誤解から、市民法と教会法との区別が生じた。》《同じことから、どのキリスト教国家においても、…政治国家の諸貢納と諸法廷を免除される、一定の人びとがいることになる。》(25/415f)

《もうひとつの一般的な誤謬は、永遠の生、永劫の死、および第二の死という語のあやまった解釈からくる》(29f/418)

⇒《すべての人は、彼の魂が不死なのであるから、本性上、生命の永遠性をもつというのである。》(30/419)

《聖書のなかの魂は、つねに生命か生命ある被造物をあらわし、肉体と魂はいっしょになって、生きている肉体をあらわす。》(31/419)

⇒《贖宥の教義とは、…一時的にあるいは永久に煉獄の火からまぬかれるという教義であり、その火のなかで、これらの無形の実体が、やかれることによって、きよめられて天国にふさわしいものとされるのだと、称せられる》(32f/420)

第45章 魔物学およびその他の異邦人の宗教の遺物について

○ローマの儀礼の混入が多い。

《現在ローマの教会のなかで行なわれている、諸聖人、諸映像、諸遺跡の崇拜…は、…神

の語によって許されていないし、…異邦人たちの最初の改宗に際して、そのなかに残されたのであり、…ローマの司教たちによって、奨励され…たのだ》(90/447)

《聖者たちの叙列は、異邦人の流儀の…遺物、…ローマのコモンウェルスそのものとともに古い、慣習なのである。》(95/449)

《法王たちが最高祭司長の名称と権力を受け取ったのも、ローマの異教徒からである。》(95/449f)

《行列をつくって諸映像を運びまわすことは、ギリシャ人およびローマ人の、もうひとつの遺物である。》(96f/450)

第46章 空虚な哲学および架空のいつたえから生じた暗黒について

○ギリシャ哲学が有害なのは、靈魂が実在するという考えを導くからである。

《私の信じるところでは、自然哲学において、今日アリストテレス形而上学とよばれているもの以上に背理的なことを、…政治学において言ったことの多くよりも、統治に反することを、…かれの倫理学の大部分よりも無知なことを、…言うことはできない。》(111/455)

《聖書とまぜあわされてスコラ神学をつくることになった、かれらの形而上学から、われわれは、この世には諸物体から分離されたある諸本質が存在する、ということを知られる》(114/456)

《アリストテレスの政治学から、かれらは、民衆的以外のすべてのやりかたのコモンウェルスを、圧政とよびことを学んだ。》(128/464)

第47章 そのような暗黒からでる利得について、およびそれが誰に帰属するか

○キリスト教会は、根拠のない教義によって、権力と経済的利益を手に入れている。

ローマ皇帝 ⇒最高祭司長(政治国家に臣従する役人)の称号 ⇒聖ペテロの権利
「教会が神の王国」と主張

暗黒とはたとえば……法王の無謬/司教は法王に臣従/聖職者の免税/聖なる称号/結婚は聖礼である/祭司の独身/告白/列聖/贖罪/煉獄/魔よけ/スコラ神学

《法王制が死滅したローマ帝国の幽霊で、その墓のうえに冠をいだいてすわっているものにほかならない》(150/473f)

□ 総括と結論 □

《結論すれば、この全論究のなかに…、私が考えうるかぎり、神の語にも善良な風俗にも反するものはなく、公共の平穩をみだすものもない。したがって、私は、それが印刷されるのが有益であるだろうと思うし、……諸大学で教えられるのがもっと有益であろうと思う》(171/483)

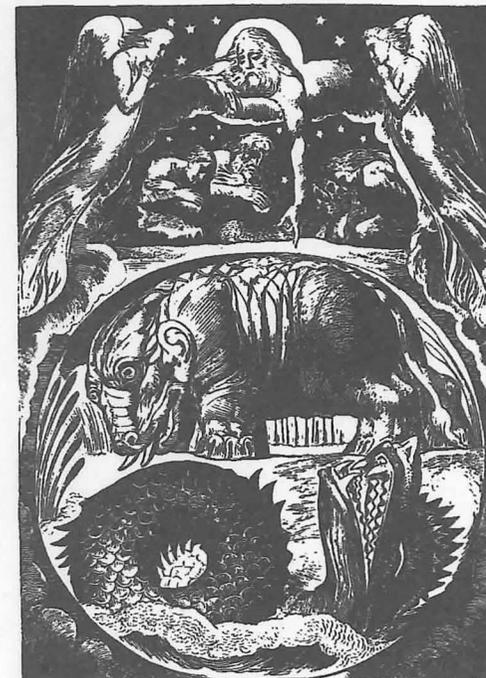
~~~~~

- ホップズの論証は、聖書の引用と聖書研究の成果にもとづいており、論理的かつ合理的なものである。
- 合理的とは、魂、煉獄、天使、聖人崇拜、法王無謬性といった、ローマ教会が持ち込んだ非合理的な要素をすべて払拭していることをいう。
- ホップズは、彼の政治学が、現にキリスト教の信仰をもつすべての西欧社会の人びとに受け容れられることを望んだ。
- ホップズのキリスト教理解は、プロテスタント神学を下敷きにしている。
- ホップズがアリストテレス哲学を嫌うのは、それがスコラ哲学を基礎づけ、靈魂の实在を支持するからである。

- 『リヴァイアサン』の後半は、ある信仰や信念、イデオロギーをもつ人びとの集団（教会や党）と、政治的国家との関係について論じている。
- たとえ、超越的な信念やイデオロギーが支配的である社会でも、政治的国家（主権）がその信念をもつ集団に優越すべきであることの論証が、主張の眼目である。
- ホップズの政治学は、近代西欧的な政教分離の規準となった。

- 20世紀は、ファシズム、マルクス主義国家によって、近代政治の原則が否定されたことを軸に展開した。
- イスラム世界の政治問題は、ホップズ的問題関心のなかで解かれるべき問題である。
- 現代の中国は、資本主義の自由経済と、イデオロギー党派の一党支配の組み合わせであり、歴史的な概念としては、ファシズムに該当する。
- 中国は、党と国家の優劣関係をめぐって複雑な様相を示しており、ホップズの考察が密接に関連する。

- ホップズの権力の一般理論（『リヴァイアサン』前半）は、後半の教会論と照応してはじめて、具体的現実的な内容をもつ。
- ホップズは国教会の洗礼を受けているが、キリスト教を文字通り信仰してのことかは疑問。むしろ自らの政治学者としての信念に従ってとった態度ではないか。
- ホップズの教会論は、キリスト教の信仰を「人びとの信念一般」に置き換えた場合に、その今日的意味が明らかになる。



ベヘモットとレビヤタン、ブレイク画。

15とくと見よ、ベヘモットを、わたしがあなたと共に造ったもの、  
 25あなたはレビヤタンを魚鉤で引きずり出せるか、  
 網でその舌を押さえることができるか、  
 26紐でその鼻を押さえ、  
 その頸に棘の木を突き通せるか。

二 神は野生動物を圧倒する原始の怪物ベヘモットを第二回弁論のはじめに登場させる。ベヘモットおよび本章後半で登場するレビヤタンは、オリエントからシリア・パレスティナ、エジプトの神話に共通するカオス（混沌）の勢力をヨブ記作者がここの叙述にふさわしい形に具象化した怪物である。ベヘモットはナイル河の河馬を、レビヤタンはナイル鱈を下敷きしているが、それらをそのままモデルとしてはいない。後者には竜の要素も加わっている。多神教的世界の神話に特色的な神と竜などのカオスの勢力との闘争神話は旧約聖書においても痕跡を残している（イザヤ1、59、詩篇134、89他）が、一神教的な神観に徹するヨブ記においては最初の闘争はまったく認められず（詩篇104章も同様）、ベヘモットもレビヤタンも神の創造物であると主張され、彼らはカオスをもたらす力を発揮しないように、神によって管理されている。「ベヘモット」は「ベヘマー」（家畜）の複数形で、力の卓越した動物であることを示す。この語はヨブ記以外には見られず、ヨブ記作者の造語であろう。彼の存在は37で予告されていた。

2004-5-15

朝日カレッジセンター 提携  
@東京工業大大岡山  
西9号館W935講義室

# はじめての言語ゲーム

2004.10.9  
橋爪大三郎

～ 発展編 ～



## 0 講師自己紹介

はじめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会理工学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『その先の日本国へ』(以上、勁草書房)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『冒険としての社会科学』(毎日新聞社)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『こんなに困った北朝鮮』(メタローク)、『自分を活かす思想/社会を生きる思想』『天皇の戦争責任』(以上、共著、径書房)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『世界がわかる宗教社会学入門』(筑摩書房)、『政治の教室』『人間にとって法とは何か』(以上、PHP新書)、『「心」はあるのか』(ちくま新書)、『言語/性/権力』(春秋社)、『永遠の吉本隆明』(洋泉社新書y)ほか。 <http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

## 配布資料

- ・「はじめての言語ゲーム」……東工大の学部4年生向け講義の、講義ノートです。
- ・「社会はどういう空間であるのか」……同じく、配布資料です。
- ・「朝日新聞日曜朝刊・ポケットから」……同じく、配布資料です。

(参考文献～追加)

野矢茂樹『ウィトゲンシュタイン『論理哲学論考』を読む』哲学書房 2400円

第1日 10月13日(水) 18:30～20:30

## 1 ヴィトゲンシュタインの人と思想

- 0. 1 ヴィトゲンシュタインとは誰か?
- 1. 2 ヴィトゲンシュタインの生涯と思想

## 2 言語をめぐる謎

- 1. 3 言葉はなぜ意味が通じるのか
- 1. 4 さしあたりの結論

## 3 前期のウィトゲンシュタイン——『論理哲学論考』——

- 3. 1 『論理哲学論考』の成り立ち
- 3. 2 写像理論
- 3. 3 まとめ

## 4. 1 言語の意味

## 4. 2 ヴィトゲンシュタインの言語哲学

## 4 後期のウィトゲンシュタイン——言語ゲームとはなにか——

- 5. 1 用法の一致
- 5. 2 私的言語
- 5. 3 言語ゲームとルール
- 6. 1 言語ゲームとルール

第2日 10月20日(水) 18:30～20:30

## 5 ルールは実在するか——クリプキのルール懐疑主義——

- 6. 2 クリップキのルール懐疑主義
- 6. 3 ルールが存在するとはどのようなことか
- 6. 4 アスペクト・他者・心
- 6. 5 確実性の問題

## 6 法と言語ゲーム

- 7. 1 ハートの法理学
- 7. 2 法の命令説
- 7. 3 内的視点/外的視点

□7□ 宗教と言語ゲーム

- 8. 1 言語ゲームとしての宗教
- 8. 2 言語ゲームとしての仏教
- 8. 4 禅宗はどういうゲームか
- 8. 5 天台宗・日蓮正宗・創価学会
- 8. 6 言語ゲームとしてのイスラム教

□8□ 本居宣長の言語ゲーム

1) 宣長はなぜ、歌を詠み続けたのか

〔古語いしごと 万葉以前と言語 ←賀茂真淵が傾倒  
 〔雅言みやびと 平安朝と言語 ←宣長が依拠 源氏物語…平安歌物語の精華  
 新古今集を手本に詠み続ける 「ふり」が一致すれば「心」が一致する <あはれ>

・文字と正書法

漢文正書体/仮名文学 漢字仮名混じり文……正書法・読み仮名が確定する  
 歌なら、漢字仮名混じり日本語から、大和ことばだけを蒸留して結晶化できる  
 (万葉仮名の段階では、このような作業ができない)

・歌学…歌についての理論(二次ゲーム~論理学) 儒仏による歌の解釈  
 詠歌…歌をよむ実践(一次ゲーム) Th 歌学は歌を根拠づけたい

2) 宣長は、なぜ「古事記」に注目したのか

〔日本書記 中国の歴史書の模倣~漢文体  
 〔古事記 上古の無文字伝承を記録する 漢字が伝わる前の<日本>を留める

・なぜ古事記の編纂に、太安万侶と稗田阿礼の協力が必要だったか  
 ある説:天智天皇がのべた言葉を稗田阿礼が暗誦して編纂した ←奇妙?

・正書法が確定していないなら、口承伝承を漢字表記をしても、人間が口伝しないかぎり正しい読み方は伝わらない

A地域 口承伝承+漢字表記+伝承者  
 B地域 口承伝承+漢字表記+伝承者 ⇒ 漢字表記の集積+複製伝承者  
 ……

→太安万侶は、稗田阿礼がいなければ、漢字表記が読めず、編集ができなかった

・上代の日本語(無文字言語)がどう漢字表記されたかわかれば、漢字表記の背後に、漢字(中国文明)が渡来する以前の純粋日本語を再構成できる  
 →日本と日本人の、通歴史的アイデンティティを、学問的に根拠づける

3) 宣長はなぜ「日本中心主義」となったか

・「凡て迦微とは、古御典等に見えたる天地の諸の神たちを始めて、其を祀れる社に坐す御霊をも申し、又人はさらにも云はず、鳥獸木草のたぐひ海山など、其餘何にまれ、尋常ならずすぐれたる徳のありて、可畏き物を迦微とは云なり」

・カミが何であるかを、断言(定義)することを拒む。  
 カミが何であるかは、古語の用例から見て取るべき。 ←言語ゲームに内属せよ

・天照大神は太陽か・論争  
 上田秋成……太陽は客観的実在。天照大神は上古の日本人がそれに描いたイメージ。  
 本居宣長……天照大神は太陽そのもの。漢意を離ればそれがわかる。  
 cfユダヤ教は「ユダヤ中心主義」だが、客観的・普遍的認識と両立する

・「道」論争 「直毘霊」  
 中国……道をとことさら人為的に設定 ~ 実際には道が守られていなかった証拠  
 日本……道という意識や制度はなし ~ 道がないのが道であった  
 cfこれは屁理屈でなく、日本は一次ゲーム、中国は二次ゲームと考えれば理解しやすい

漢意……言語ゲームを記述する二次的な層  
 大和ごころ……言語によって記述される一次的な層

□9□ 言語ゲームから、なにがみえてくるのか

1) 人間はどのように自由なのか

・規則に従う rule following 人間は自ら規則に従うので、強制によるのではない  
 規則に従うことが人間の自由である ルール~意味~価値  
 ・社会は規則(ルール)に満ちている ルールの根拠はない ルールに従うのが自由

2) ポストモダンを超えて

・近代主義:近代社会の価値や制度は、それ以外のものより優れ、普遍的である  
 価値相対主義:どんな価値や制度も構成されたもので、普遍的でも絶対的でもない  
 構造主義、構築主義、ポストモダン、… 価値相対主義自身が近代主義の一変形  
 ・人間はかならずある言語ゲームに属し、そのルールに従う  
 Th(「ゴドーを待ちながら」の定理) ある言語ゲームの中では、前提が実在し始める  
 人間はどんな言語ゲームも相対化し、その外に出ることができる。けれども、それは別の言語ゲームを始めることでしか可能でない。例) 伝統社会→近代社会  
 ・自分たちが生きる社会の価値を尊重するのは正しい。(批判し相対化するのも正しい)

(参考文献)  
 小林秀雄 『本居宣長(上)(下)』新潮文庫/『本居宣長』『同 補記』新潮社

## 憲法とは何なのか

## □0□ 講師自己紹介

はしづめ だいさぶろう……1948年神奈川県生まれ。東大大学院社会学研究科博士課程修了。執筆活動を経て、現在、東京工業大学大学院社会学研究科・価値システム専攻教授。社会学者。

著書……『言語ゲームと社会理論』『仏教の言説戦略』『現代思想はいま何を考えればよいのか』『その先の日本国へ』(以上、勁草書房)、『言語派社会学の原理』(洋泉社)、『選択・責任・連帯の教育改革』(共著・勁草書房)、『橋爪大三郎の社会学講義』『同2』(夏目書房)、『民主主義は最高の政治制度である』(現代書館)、『はじめての構造主義』(講談社現代新書)、『小室直樹の学問と思想』(共著、弓立社)、『こんなに困った北朝鮮』(メタログ)、『正義・戦争・国家論』『自分を活かす思想/社会を生きる思想』『天皇の戦争責任』(以上、共著、径書房)、『幸福のつくりかた』(ポット出版)、『ヴォーゲル、日本とアジアを語る』(共著、平凡社新書)、『世界がわかる宗教社会学入門』(筑摩書房)、『政治の教室』(PHP新書)、『日本人は宗教と戦争をどう考えるか』(共著・朝日新聞社)、『「心」はあるのか』(ちくま新書)、『人間にとって法とは何か』(PHP新書)、『永遠の吉本隆明』(洋泉社新書y)、『言語・性・権力』(春秋社)ほか <http://www2.valdes.titech.ac.jp/~hashizm/>

## □1□ 憲法は、誰が誰にあてたものなのか

## 1) 法とは何か

- ・法は、強制力をともなったルール      ルールはどんな社会にもある  
社会を成り立たせるルール：責務を課すルール(一次ルール)
- ・法が“権力者が人民にあてた命令”とみえるとしても、それは派生的な形態

## 2) 統治契約：統治者が統治の権能をもつことを認める契約

- ・統治契約は、統治される人びとの代表者が、統治者と契約するかたちで結ばれた  
ダビデ王…… 族長たちとの契約 & サムエルによる塗油 anointment
- ・統治契約は、条件付きの委任なので、統治者(権力)を監視することができる

## 3) 憲法：人民(client)が、政府(agent)に向けて、統治の条件を明示した基本契約

- ・宛て先は政府→憲法に違反できるのは政府だけ
- ・書き手は人民→憲法は、特定の政治思想にもとづき、素人(人民の代表)が執筆
- ・人民/政府      税金を払う・兵役などの義務を果たす/人権を守る・公共サービス

## □2□ 憲法は、どこがキリスト教の思想なのか

## 1) 神の統治/人の統治

←ホッブズ『リヴァイアサン』

- ・神の統治は絶対的・無条件である/人の統治は限定的・条件つきである
- ・神の統治は、やがて来るイエス・キリストの再臨～最後の審判のあとにやっと実現  
神の王国：モーセ→士師の時代→サムエル      そのあとは王制(人の王国)
- ・教会は、人の王国をさしおいて、キリスト教徒を統治する権限がない(政教分離)

## 2) 民主政治

- ・神が絶対 → 神の前では人は平等 → 平等な人民の集合体が主権を構成すべき
- ・すべて世俗の職業は神が与えた任務である(職務神聖観) → 政治も神への奉仕
- ・人民は、政治家が職務に忠実か監視する権利がある      議会⇔教会の集会～会計報告

## 3) 世俗法と宗教法

- ・一神教は宗教法(神の命令)を持つのが原則      ユダヤ教、イスラム法
- ・キリスト教は、神の子イエスの権威によって、宗教法(ユダヤ教の律法)を廃止した  
→キリスト教徒は、各地の世俗法(神の法ではなしに人間の法)に従う
- ・国王や議会は法を創造できる      世俗法は宗教法に服さず最高の法(憲法)となる

## □3□ 日本国憲法のどこが問題か

## 1) 憲法の正統性

- ・憲法制定権力      憲法制定は、憲法の定めるプロセスで行えない→超憲法的権力  
憲法を憲法たらしめる超憲法的な権力を、人びとが正統と信じることで、憲法は完結
- ・天皇      伝統的専制君主→旧憲法で主権者→新憲法で象徴      天皇家は超憲法的存在
- ・GHQ      保障占領：ポツダム宣言受諾にもとづく超憲法的状態      実質主権はGHQに

## 2) 憲法と条文

- ・憲法とは、狭義の憲法(条文)だけでなく、その解釈や運用を含めた国家体制をいう
- ・広義の憲法=条文+解釈運用+判例+条約+慣例+学説+…
- ・重要な条約：国連(国連軍への参加など加盟国の義務)、日米安保条約
- ・仮に憲法に矛盾する運用が長期に定着した場合、それも憲法の一部になる

## 3) 憲法と人権

- ・人権は、特定の法律によって授權されるのではなく、自然法に書きこまれているという
- ・とは言え、憲法に書き込まれなければ、法律上の効力ある規定にはならない
- ・人権の概念それ自体が、流動的で拡大している。それをみな憲法に書き込むのは無理
- ・人権のような「先憲法的な価値」を、憲法に整合的に書き込む方法はない

## 4) 憲法と第9条

- ・交戦権と軍の保有を「放棄」できるのは、それが主権に固有の権利だから
- ・軍……領土外で行動する、禁止されたこと以外は実行できる  
自衛隊……領土内で行動する、授權されたこと以外は実行できない(≒警察)
- ・第9条が機能したのは、アメリカが日本を同盟国とし集団的自衛権を行使する用意を示してきたから      (第9条は決して単独平和主義ではない)
- ・日本に軍が「存在」しないので、軍をめぐる制度の形成や討議ができない